

嘉麻市教育委員会 点検・評価報告書

(平成25年度事業分)



平成26年5月13日(火)

嘉麻市立嘉穂小学校 開校記念式典の様子

平成26年9月
嘉麻市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条及び嘉麻市教育基本条例第7条の規定に基づき、平成25年度の教育委員会の点検及び評価を行いましたことを報告します。

嘉麻市教育委員会委員名簿

平成26年9月現在

職名	氏名	任期
委員長	豊福 眸子	平成26年 7月 4日～平成30年 7月 3日
委員長職務代理者	佐竹 正利	平成25年 7月 4日～平成29年 7月 3日
委員	田中 了彩	平成23年 7月 4日～平成27年 7月 3日
委員	辻田 喜美	平成24年 8月29日～平成28年 8月28日
教育長	栗野 良一	平成22年11月 9日～平成26年11月 8日

目次

1. 教育委員会点検・評価の概要について	1
(1) はじめに	
(2) 点検・評価の導入の目的	
(3) 点検・評価する対象	
(4) 点検・評価の方法	
(5) 結果の取扱い	2
(6) 嘉麻市教育行政の基本理念	
(7) 嘉麻市教育振興基本計画	
「第2次教育アクションプラン（平成24年度～平成26年度）」	
2. 教育委員会の取り組み	3
(1) 平成25年度教育委員会実施状況	
(2) 平成25年度教育委員会の会議における議案	4
(3) 平成25年度教育委員会の会議における協議	
(4) 平成25年度教育委員会の会議における報告	
3. 各種学校調査の結果	6
4. 事業別評価結果	9
○重要課題1 少人数指導等による学力向上	13
○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実	17
○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進	36
○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	50
○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進	63
○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進	70
○重要課題7 市民文化の創造	74
5. 全体評価結果	82
《資料》	85
・ 嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱	
・ 平成26年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿	

1. 教育委員会点検・評価の概要について

(1) はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の一部改正及び嘉麻市教育基本条例の制定により、平成20年4月から、嘉麻市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

(2) 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本的方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体的教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があるため、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させることが目的です。

(3) 点検・評価する対象

第2次嘉麻市教育アクションプラン（平成24年度～平成26年度嘉麻市教育振興基本計画）の事業を対象とします。

(4) 点検・評価の方法

事業ごとに、目的達成度の観点から自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者評価を行いました。

第三者評価については、教育委員や現場教員・事務局職員等ではない人で、教育に関して公正な意見を述べることを期待できる人を想定し、議会、PTA連合会、社会教育委員、公民館運営審議会、図書館協議会、織田廣喜美術館運営協議会、スポーツ推進委員、文化財保護審議会より推薦を頂いた方に依頼し評価していただきました。

（点検・評価の流れ）

- ① 教育委員会事務局（担当課）においてその所管する事務事業等を自己評価
- ② 自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員を設置し、自己評価に対しての評価
- ③ 教育委員会は評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価
- ④ 議会へ報告
- ⑤ 議会報告後、速やかにホームページ等で一般公表

(5) 結果の取扱い

この点検・評価においては、事業ごとに4段階【A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要】で評価し、評価の高い事業については、引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に事業の見直しについて検討していく予定です。

(6) 嘉麻市教育行政の基本理念

嘉麻市教育委員会では、嘉麻市教育基本条例第2条の基本理念に基づき、嘉麻市教育行政を実施していきます。

嘉麻市教育基本条例(抜粋)

(基本理念)

第2条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び地域社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な市民の育成を期して行わなければならない。

2 市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

3 家庭、地域住民及び市は、前2項に定める基本理念の実現に努めるものとする。

(7) 嘉麻市教育振興基本計画

「第2次教育アクションプラン(平成24年度～平成26年度)」

嘉麻市教育委員会では、教育行政の基本理念に基づき、嘉麻市における教育振興のための施策に関し、基本的な事項を定めた「第2次教育アクションプラン」を策定しました。

本市教育委員会は、学校教育、社会教育、文化・芸術の各分野について、7つの教育施策を柱とし、その実現に向けて施策を推進しました。

1. 少人数指導(1学級を30人以下の児童又は生徒で編成する等の指導形態をいう。)等による学力向上
2. 個性又は能力を育成する学校教育の充実
3. 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
4. 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
5. 体力及び運動能力向上の推進
6. 人権尊重精神を育成する教育の推進
7. 市民文化の創造

今回の点検・評価では、この7つの施策に基づく事業を対象とし点検・評価しました。

* 第2次嘉麻市教育アクションプラン(平成24年度～平成26年度 嘉麻市教育振興基本計画)は以下のホームページにてご覧いただけます。

「嘉麻市教育アクションプラン」

<http://www.city.kama.lg.jp>・・・行政情報(嘉麻市教育委員会)

2. 教育委員会の取り組み

(1) 平成25年度教育委員会実施状況

教育委員会は教育長を含む5名の委員で構成され、会議の実施については、原則、定例会が毎月1回、また、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する重要事項等を適時適切に慎重に審議しています。教育委員会は嘉麻市教育委員会定例学校訪問実施要項に基づき年次計画で定例学校訪問を実施しています。小中学校を訪問することで、学校教育現場の状況を確認することができ、教育委員の立場から要望など意見を述べました。

◆平成25年度教育委員会開催実績

・定例会	12回		
・臨時会	3回	計	15回

◆平成25年度嘉麻市教育委員会学校訪問の実施状況

○定例学校訪問（3校）

嘉麻市教育委員会が各学校における学校経営の諸課題を把握するとともに、改善に向けた方向性について協議及び所要の指導・支援を行うことにより学校力を向上させる取り組みです。

実施日：	平成25年10月 3日（木）	学校名：	稲 築 中学校
	平成25年10月18日（金）		稲築東 中学校
	平成25年10月21日（月）		下山田 小学校

○授業改善型学校訪問（1校）

筑豊教育事務所が、各学校の人的管理及び運営管理の実情をもとに、授業公開を通して、学力向上に向けた取り組みの指導・支援を行います。

実施日：	平成25年1月14日（火）～	平成25年1月20日（月）
	学校名： 稲 築 中学校	

○研究指定・委嘱校研究発表会（3校）

嘉麻市教育委員会が学校教育の充実と発展を目指して取り組む学校を指定委嘱し、学校教育の充実振興に寄与する取り組みです。

実施日：	平成25年11月 7日（木）	学校名：	上山田 小学校
	平成25年11月 8日（金）		嘉 穂 中学校
	平成25年11月15日（金）		稲築東 小学校

(2) 平成25年度教育委員会の会議における主な議案

番号	議案	開催日
1	嘉麻市立嘉穂小学校通学対策基本計画について	5/7
2	嘉麻市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について	6/4
3	嘉麻市教育委員会公印取扱規則の一部を改正する規則について	6/4
4	嘉麻市立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について	6/4
5	嘉麻市私立幼稚園奨励費補助金交付規則の一部を改正する規則について	6/4
6	嘉麻市学校評議員の委嘱について	6/4
7	嘉麻市学校関係評価委員の委嘱について	6/4
8	嘉麻市教育委員会教育委員長の選任について	7/4
9	嘉麻市教育委員会教育委員長職務代理者の選任について	7/4
10	嘉麻市教育委員会点検・評価報告書（平成24年度事業分）について	8/28
11	嘉穂小学校の校章デザインについて	10/1
12	嘉穂小学校の校歌について	11/7
13	嘉麻市奨学資金条例施行規則の一部改正について	11/7
14	嘉麻市立嘉穂中学校通学対策費補助金交付規則の一部改正について	2/4
15	嘉麻市立嘉穂小学校開校準備審議会条例施行規則を廃止する規則について	2/25

(3) 平成25年度教育委員会の会議における協議

番号	協議	開催日
1	「2013年 非核と平和のつどい」後援依頼について	8/28

(4) 平成25年度教育委員会の会議における報告

番号	報告	開催日
1	嘉麻市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の臨時代理について	4/1
2	嘉麻市教育センター管理規則の一部を改正する規則の臨時代理について	4/1
3	嘉麻市立嘉穂小学校開校準備に関する答申について	4/1
4	生徒指導上の諸問題に関する実態調査について	4/1
5	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/7
6	平成24年度嘉麻市立中学校卒業生の進路報告について	5/7
7	生徒指導上の諸問題に関する実態調査について	5/7

8	嘉麻市立小学校小規模特認校設置要綱について	6/4
9	平成25年6月議会上程議案等について	6/4
10	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	6/4
11	嘉麻市教育センター管理規則の一部を改正する規則の臨時代理について	7/4
12	嘉麻市教育センター臨時的任用職員の任用資格等に関する規程について	7/4
13	嘉麻市教育センター運営委員会規程について	7/4
14	嘉麻市適応指導教室設置規程の一部を改正する告示について	7/4
15	嘉穂地区統合対象小学校閉校記念碑設置補助金交付要綱について	7/4
16	嘉麻市教育委員会の後援に関する事務取扱規程の一部を改正する告示について	7/4
17	嘉麻市ボランティア人材バンク設置要綱の一部を改正する要綱について	7/4
18	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	7/4
19	嘉麻市教育委員会点検・評価報告書（平成24年度事業分）について	8/7
20	嘉麻市における不登校の基準を定める要綱について	8/7
21	損害賠償の額を定める専決処分について	8/7
22	嘉麻市立図書館図書特別整理等による休館について	8/7
23	移動図書館車の寄贈に係る感謝状について	8/7
24	移動図書館車の事故について	8/7
25	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	8/7
26	平成25年9月議会上程議案について	9/3
27	学校教育施設の利用について	9/3
28	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	9/3
29	嘉麻市立嘉穂小学校開校準備に関する答申について	10/1
30	嘉麻市要保護及び準要保護児童生徒援助費並びに特別支援教育（特別支援学級）就学奨励費交付認定規程の一部を改正する告示について	10/1
31	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	10/1
32	嘉麻市教育委員会文書管理要綱の制定について	11/7
33	嘉麻市碓井平和祈念館「平和の火」管理要綱の制定について	11/7
34	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	11/7
35	平成25年12月議会上程議案及び補正予算について	12/3
36	全国中学校リズムダンスふれあいコンクール出場補助要綱について	12/3
37	平成25年度全国学力・学習状況調査結果（速報）について	12/3

38	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	12/3
39	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	1/7
40	嘉麻市要保護及び準要保護児童生徒援助費並びに特別支援教育（特別支援学級）就学奨励費交付認定規程の一部改正について	2/4
41	嘉麻市特別支援教育就学奨励費交付認定規程の制定について	2/4
42	学校給食運営審議会への諮問に対する臨時代理について	2/4
43	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	2/4
44	平成26年3月議会上程議案について	2/25
45	嘉麻市立嘉穂小学校運営検討委員会設置規程の廃止について	2/25
46	嘉麻市立図書館雑誌スポンサー制度実施要綱の制定について	2/25
47	嘉麻市通級指導教室実施要綱の制定について	3/25
48	嘉麻市教育委員会研究指定校委嘱及び補助金交付要綱の制定について	3/25
49	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	3/25
50	平成26年度教職員の人事（内示）について	3/25

3. 各種学校調査の結果

嘉麻市内各小中学校における、特別支援介助員・学級支援員等の配置状況をまとめました。平成24年度と比べ、特別支援員、介助員及び特別支援教育補助員は3名増員、少人数指導特別教員・複式学級解消指導員の配置については3名減員しました。この増減員は市内各学校のニーズに対応した結果です。このように、必要に応じて、児童・生徒たちの学習支援環境を充実させました。

○小中学校（全17校）における、特別支援介助員等の配置数

NO	点検・評価項目	内 容	H24	H25
1	特別支援学級介助員・特別支援学級支援員の配置	肢体不自由な児童生徒の介助や特別支援学級に在籍する児童生徒の支援を行うために市費で雇用。	13名	16名
2	特別支援教育補助教員の配置	普通学級に在籍している特別支援の必要な児童生徒の指導等を行うために市費で雇用。	15名	15名
3	少人数指導特別教員・複式学級解消指導員の配置	少人数授業の補助や複式学級における指導を行うために市費で雇用。	28名	25名

次頁では、各小・中学校で行われた、教育課程実施状況及び教育課程編成状況調査結果（No.1～No.4）全国学力・学習状況調査結果（NO.5～NO.9）を集計し、学校の取り組み、児童・生徒たちの学習状況等について、平成24年度から平成25年度を併記して比較したものです。

各小・中学校の教育課程実施状況等の結果（No. 1～No. 4）は、小学校では、昨年度に引き続き「発展的学習」において、全小学校で実施している結果となっています。このことは、基礎・基本の定着によって身についた学力を、さらに活用する内容の学習が実施できているものと考えます。一方「きめ細かな指導の実施」における分割授業の学校数は前年度と比較して同じで全校実施ではありません。これは嘉穂地区及び山田地区の小規模校は児童が少なく、調査の定義に該当しないためです。また、中学校においては、全校に少人数授業補助教員を配置していることから、全ての項目において「補充指導」や、「きめ細かな指導の実施」を行っている状況です。個別支援が必要な児童・生徒に対するの特別支援教育補助教員等の配置も成果を上げていますが、ニーズが年々増加している傾向にあります。

次に、全国学力・学習状況調査の結果（NO. 5～NO. 9）では、小学校では、少人数指導授業補助教員等の配置による成果が少しずつあられ学力は確実に数値（平成25年度は最終的に県平均に到達）として上昇しています。しかしながら食生活の安定は昨年度より改善されてきているものの、自己肯定感、家庭学習時間、読書の時間は若干減少し、特に携帯電話・スマートフォンの所持率が急激に増加していることが危惧されます。中学校では、小学校と逆に食習慣の改善は今後の課題ですが、自己肯定感（7.2ポイント）、家庭学習時間（5.2ポイント）、読書の時間（12.2ポイント）は上昇しています。小学校同様、携帯電話・スマートフォンの所持率が7割近くになっていることから新たな教育指導の充実を図って行く必要が急務です。

このような結果から、学習支援環境充実のための、人的配置の充実及び継続を図っていくことが大切であると考えます。

○小学校 12校 *学校・児童調査から ()は平成25年度の国・県の平均値

NO	点検・評価項目	内 容	H24	H25
1	読み書き計算等の習熟	基礎的、基本的な知識や技能の徹底を図る時間を設定している学校	11校	11校
2	組織的な習熟の取組	週時程への位置づけを行っている学校	10校	11校
3	発展的学習	教科学習の時間に発展的な学習を行っている学校	12校	12校
4	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	11校	8校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	8校	8校
	内訳：非分割授業	チームティーチングによる授業を行った学校	10校	11校
5	食習慣	朝食を毎日食べている児童 (国96.3%、県94.6%)	92.3%	93.3%
6	自己肯定感	自分にはよい所があると思う児童 (国75.7%、県74.1%)	72.8%	69.3%
7	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている児童 (国96.7%、県96.6%)	94.8%	93.3%
8	携帯電話の使用状況	携帯電話で通話やメールをしている児童 (国46.1%、県49.1%)	29.5%	51.2%
9	読書の習慣	家や図書館での1日あたりの読書時間 (国32分、県33分)	35分	31分

○中学校 5校 *学校・生徒調査から ()は平成25年度の国・県の平均値

NO	点検・評価項目	内 容	H24	H25
1	補充指導の実施(1)	朝や放課後における補充指導の実施学校	5校	5校
2	補充指導の実施(2)	長期休業中における補充指導の実施学校	5校	5校
3	きめ細かな指導の実施	少人数指導(チームティーチングを含む)を行った学校	5校	5校
	内訳: 分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	5校	5校
	内訳: 非分割授業	チームティーチングによる授業を行った学校	5校	5校
4	食習慣	朝食を毎日食べている生徒 (国 93.8%、県 92.8%)	89.2%	86.9%
5	自己肯定感	自分にはよい所があると思う生徒 (国 66.4%、県 64.4%)	61.3%	68.5%
6	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている生徒 (国 94.1%、県 92.0%)	80.2%	85.4%
7	携帯電話の使用状況	携帯電話で通話やメールをしている児童 (国 64.7%、県 64.6%)	57.1%	69.3%
8	読書の習慣	家や図書館での1日あたりの読書時間 (国 27分、県 26分)	26分	32分

事業別評価結果

○重要課題1 少人数指導等による学力向上

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)確かな学力向上のための取組みの推進	1	少人数指導推進事業	○			
	2	学校提案型学力向上事業		○		
	3	研究指定校補助事業		○		
	4	学力検証事業		○		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)個性や能力を伸ばす教育の充実	5	特別支援教育総合推進事業	○			
	6	補助教員配置事業		○		
(2)社会の変化に対応する教育の充実	7	英語コミュニケーション能力の育成事業		○		
	8	情報教育推進事業		○		
	9	情報教育施設整備事業		○		
(3)信頼される教員の確保と研修の充実	10	嘉麻市教育センター研修推進事業		○		
	11	教職員人事配置事業		○		
(4)安心して学べる学校づくりの推進	12	学校防犯体制整備事業	○			
	13	通学対策事業	○			
	14	学校施設維持管理事業		○		
	15	大隈城山校維持管理事業	○			
(5)嘉穂小学校施設整備の推進	16	嘉穂小学校開校準備審議会運営事業	○			
	17	嘉穂小学校建設事業	○			
(6)地域に開かれた学校づくりの推進	18	学校関係者評価事業	○			
	19	学校開放事務事業	○			
(7)小中連携教育への取組み	20	小・中連携・一貫教育研究事業		○		
(8)教育の機会均等の促進	21	就学援助事業	○			
	22	奨学金事業		○		
	23	幼稚園就園奨励費支給事務事業	○			

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)道徳性と自立心を養う心の教育の充実	24	道徳教育推進事業		○		
	25	キャリア教育推進事業		○		
	26	ボランティア活動推進事業		○		
(2)健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実	27	学校保健事業	○			
	28	学校給食運営事業	○			
	29	学校給食費算定及び収納事業		○		
(3)家庭・地域・学校における読書活動推進	30	読書活動推進事業	○			

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(4)いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実	31	適応指導教室(れすとぴあ)推進事業	○			
	32	教育相談推進事業	○			
	33	学校支援相談員(旧:ひきこもり訪問指導員)配置事業	○			
(5)家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	34	地域教育資源活用事業		○		
	35	学社連携融合事業		○		
	36	家庭教育支援事業	○			
	37	青少年健全育成事業		○		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備	38	社会教育関係団体等育成事業		○		
	39	社会教育関係団体活性化補助事業		○		
(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進	40	社会教育施設整備事業		○		
	41	ボランティア人材バンク事業		○		
	42	生涯学習推進事業	○			
	43	青少年体験活動推進事業	○			
	44	公民館・分館等の連携強化推進事業		○		
	45	分館及び自治公民館等活動費補助事業		○		
	46	コミュニティ活動支援		○		
(3)図書館の利用促進	47	公民館事業		○		
	48	図書館施設管理運営事業		○		
	49	読書活動推進事業		○		
	50	図書館ボランティア養成事業		○		

○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)スポーツ推進計画の策定	51	スポーツ推進計画の策定	○			
(2)子どもの体力・運動能力向上の推進	52	プロジェクトK(旧:ゴールデンエイジプロジェクト)	○			
	53	コーチングスキルアップ	○			
(3)スポーツ活動の活性化	54	スポーツコミュニティ創造事業	○			
	55	体育施設管理運営事業	○			
	56	スポーツ大会支援事業	○			
(4)スポーツ大会の誘致	57	スポーツ大会誘致事業	○			

○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)学校教育における人権・同和教育の推進及び支援	58	人権・同和教育推進事業		○		
	59	人権学習推進事業		○		
(2)社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	60	解放子ども会育成事業		○		
	61	解放学級育成事業		○		

○重要課題7 市民文化の創造

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)美術に関する創造的活動の推進	62	文化芸術活動推進事業		○		
	63	美術館運営管理事業	○			
	64	企画展事業	○			
	65	美術館ボランティア事業		○		
	66	美術教育普及事業	○			
(2)文化財の保護・継承・活用	67	歴史民俗教育普及事業	○			
	68	文化財保護事業	○			
	69	歴史民俗資料展示・保管施設の管理活用事業	○			

☆点検評価表の見方☆

事業名 (予算・決算)	[番号] 事業名 (課: 係) (予算: 千円 決算: 千円)				
目的	事業の目的について記載しています。				
事業内容	平成25年度に実施した事業について記載しています。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 平成25年度の課題として挙げた事項等を記載しています。</p> <p>【課題等への取り組み】 上記の課題について、どのような取り組みをしたか記載しています。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性				
	事業の効果				
	事業の効率性				
	【自己評価の根拠】 自己評価に至った理由について記載しています。 評価の指標は、次のとおりです。 A：期待通り B：概ね期待通り C：課題あり D：事業の見直し要				
今後の方向性	この事業の目的を達成するための方向性について記載しています。				
H26年度の課題	平成26年度の課題について記載しています。				
『評価委員の意見』 点検評価委員会議でいただいた、評価委員の意見を記載しています					
教育委員会評価		今回	評価委員の意見を踏まえ、教育委員会が評価しました。		
		(前回)	昨年度の評価です。		

○重要課題 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	[1] 少人数指導推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： 101, 164千円 決算： 101, 164千円)				
目的	少人数指導(1学級を30人以下の児童又は生徒で編制する等の指導形態をいう。)により、より個に応じた指導を行うことによって、生徒指導の充実、学力を向上させるよう努めます。				
事業内容	小学校11名、中学校14名の少人数指導特別教員を配置し、小・中学校の少人数指導を推進しています。				
H25年度の課題と取組み	<p>【課題等】 少人数指導の実施により、市費による若年の少人数指導特別教員が多くなっており、授業力・指導技術の向上を図るための取組みが必要です。</p> <p>【課題等への取組み】 夏季休業期間等を利用し、研修会等を実施し、授業力・指導技術の向上に努めました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 少人数指導の実施により、きめ細かな指導が充実することで、基礎・基本の学力の定着が図られるとともに、問題行動も減少し、落ち着いた学校生活が送れるようになりました。4月に実施したNRT学力テストでは、学力平均偏差値が昨年に比べ0.2ポイント上昇し、県平均の50に到達する等、成果は上がっています。また、全国学力・学習状況調査の結果では、児童生徒の自尊感情も高くなっており、学力向上の兆しが見えています。 嘉麻市教育センター主催の研修会の実施や、退職校長が指導主事として若年講師の指導にあたるなど、講師の指導力向上に努めました。				
今後の方向性	小・中学校全学年30人以下の児童生徒で編成する等の指導形態による少人数指導を実施し、生活面での落ち着きが学力向上につながるよう、今後も個に応じた指導を充実させ、嘉麻市の平均正答率を毎年1ポイント上昇させ、県平均をさらに上回れるように努めます。				
H26年度の課題	少人数指導により、個に応じた指導をさらに充実させるために、授業力・指導技術の向上を図るための取組みが必要となります。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導の実施により0.2ポイント上がったのは、ある程度評価できます。 ・個々に応じた指導はとても難しいと思うが、充実を望みます。 ・学習規律の徹底と学習意欲の向上に努めて下さい。 					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	[2] 学校提案型学力向上事業 (学校教育課：教務係) (予算： 4, 000千円 決算： 3, 725千円)				
目的	学校提案による教育課程外の事業を実施することにより、各学校・地域等の活性化を図り、学力を向上させるよう努めます。				
事業内容	学校提案による個に応じた学力向上モデル事業、学校外補習学習推進事業、学校創意工夫事業を小学校12校、中学校5校で実施しました。				
H25年度の課題と取組み	<p>【課題等】 30人以下学級による少人数指導の成果が徐々に出ていますが、依然として全国学力・学習状況調査で、嘉麻市の平均正答率は福岡県平均より低く、基礎学力が定着していない児童生徒が多く見られます。そのため、学力定着度に応じた事業を実施するなど、児童生徒の実態に応じた取組みを継続して行う必要があります。</p> <p>【課題等への取組み】 対象校を15校から17校に増やし、学校外補習学習等の学力向上事業を実施しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 学校提案型学力向上事業の対象校を15校から17校に増やし、夏季、冬季休業中や放課後に、卒業生や地域ボランティアによる補習学習を行いました。小学校では基礎・基本の習熟を図り、中学校では3年生を対象に進路実現を目指した補習学習を行いました。基礎・基本の定着が図られる一方、学生ボランティア等から学習の仕方や心構えを聞くことにより、受験を迎える生徒たちの学習意欲の喚起につながりました。</p>				
今後の方向性	<p>学校提案による、「個に応じた学力向上モデル事業」、「学校外補習学習推進事業」、「学校創意工夫事業」を通して、嘉麻市の児童生徒の学力向上に努めます。</p> <p>また、基礎学力の定着だけでなく、個々の学力定着度に合わせた取組みを行うことで、市全体での学力向上の機運を盛り上げていきます。</p>				
H26年度の課題	<p>全国学力・学習状況調査で、嘉麻市の平均正答率は福岡県平均より低く、基礎学力が定着していない児童生徒が多く見られます。そのため、学力定着度に応じた事業を実施するなど、児童生徒の実態に応じた取組みを継続して行う必要があります。</p>				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着していない子どもに意欲を持たせて、学習に向けさせるのは大変な作業と思うが、それぞれの学校提案による事業に取り組みを期待します。 ・基礎学力の確かな定着をお願いします。 					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	[3] 研究指定校補助事業 (学校教育課：教務係) (予算： 1, 800千円 決算： 1, 800千円)				
目的	研究指定事業を通して、教職員の実践的指導力の向上を図るとともに、一人一人の資質の向上に向けた研修等への参加支援体制の整備を図ります。				
事業内容	研究指定校を2ヵ年事業として、毎年小学校2校、中学校1校を委嘱し、2年次に研究発表を行いました。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 校内研究を計画的・継続的に実施したり、教育論文を提出したりできるよう、指導主事の派遣を要望するよう促す必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 教育センターに指導主事が配置されたことにより、指導主事を活用した授業改善や校内研究の活性化が図られました。また、校内研究が活性化され、研究発表を行うことで教職員の実践的指導力の向上が図られました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 教育センターに指導主事が配置されたことにより、指導主事を活用した授業改善や校内研究の活性化が図られました。 校内研究が活性化され、研究発表を行うことで教職員の実践的指導力の向上が図られました。				
今後の方向性	発表会後の学校へ、引き続き校内研修による授業改善の意識が高まるように働きかけを行うよう、促していきます。				
H26年度の課題	引き続き、発表会後の学校に対し、教育論文の提出を求めたり、指導主事派遣を要望したりするよう促します。また今年度発表の学校及び研究指定1年次の学校に対しても指導主事の活用を促します。				
『評価委員の意見』 ・研修をすることで指導力の向上を図ることできるため大切な事業だと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	[4] 学力検証事業 (学校教育課：教務係) (予算： 6,063千円 決算： 5,697千円)				
目的	児童生徒の実態を把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取り組みの改善を図り、自ら学び考えるなどの確かな学力を育む教育の充実を図る事です。				
事業内容	学力実態調査を実施し、嘉麻市内の児童生徒の実態を把握して、分析を行いました。				
H25年度の課題と取組み	<p>【課題等】 学力実態調査から課題を整理し、学期ごとに取組みの評価を行い、全小・中学校において、次への改善に繋いでいく必要があります。</p> <p>【課題等への取組み】 学力実態調査を市内のすべての小・中学校で実施しました。また、分析ツールの活用についての教務主任研修会を実施し、各学校の学力実態の分析を行いました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市の平均点は福岡県の平均点を下回っており、今後も組織的、継続的な取組みが必要です。しかし、学力実態調査から課題を整理し、学期ごとに取組みの評価を行い、次への改善に繋いでいる学校が増え、学力向上に向けた組織的な取組みが見られました。 「家庭学習のすすめ」を各家庭に配布し、家庭学習の定着を図りました。				
今後の方向性	第2次教育アクションプランでは、学力検証事業としてこの事業を引き継ぎ、児童生徒の実態や学力を正確に把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取り組みの改善を図ります。				
H26年度の課題	学力実態調査から課題を整理し、学期ごとに取組みの評価を行い、全小・中学校において、次への改善に繋いでいく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・量より質だと思います。確かな学力の定着を期待します。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1) 個性や能力を伸ばす教育の充実

事業名 (予算・決算)	[5] 特別支援教育総合推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： 2,770千円 決算： 2,770千円)				
目的	保育所(園)・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における特別支援教育を総合的に推進することです。				
事業内容	特別支援教育連携協議会の開催、巡回相談の実施等、発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒を支援しています。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 早期からの支援体制構築のためには、相談支援ファイルの活用、関係機関の連携、特別支援教育の啓発が必要であり、特別支援教育連携協議会を中心に支援体制の構築を進める必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 早期支援コーディネーター(臨床心理士)による、就学前から就学における、支援が必要な幼児・児童の早期発見と、早期対応が必要です。また、昨年度作成した、関係機関と情報共有ができる相談支援ファイルを支援が必要なこどもの保護者に配付し、情報の共有を図りました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	<p>【自己評価の根拠】 関係機関の連携や相談支援ファイルの活用により、就学前から中学校までの段差のない、教育活動が展開されるようになりつつあります。 早期支援コーディネーター(臨床心理士)の配置、関係機関が情報を共有できる相談支援ファイルの活用、リーフレットの全戸配布など、特別支援教育の啓発を行うことにより、早期からの支援体制構築に取り組んでいます。 また、保育園等の巡回相談を実施し、専門的な指導助言を受けることで、よりきめの細かい指導が行われるようになってきています。</p>				
今後の方向性	引き続き小・中学校だけでなく、就学前においても巡回相談を実施していきます。 嘉麻市特別支援教育研修会の実施、リーフレットの活用等により、特別支援教育の基礎的な理解を図るとともに、特別支援教育についての啓発を行います。				
H26年度の課題	早期からの支援体制構築のためには、相談支援ファイルの活用、関係機関との連携、及び特別支援教育に対する理解を広めるための啓発が必要です。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・人的配置をして良くなったとなれば効果Aで大いに評価できると思います。 ・幼児期から一貫して取り組まれていて素晴らしいと思います。 					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1) 個性や能力を伸ばす教育の充実

事業名 (予算・決算)	[6] 補助教員配置事業 (学校教育課：教務係) (予算： 69,525千円 決算： 66,350千円)				
目的	特別支援教育充実のための補助教員、介助員、支援員を配置し、一人一人のニーズに応じた教育条件の整備を図ります。				
事業内容	特別支援教育補助教員16名、特別支援学級介助員3名、特別支援学級支援員13名を配置し、一人一人のニーズに応じた特別支援教育を行いました。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 特別支援教育についての専門的な研修を実施することにより、支援計画をもとにした計画的・組織的な取り組みを実施することが必要です。</p> <p>【課題等への取り組み】 嘉麻市教育センターが実施する特別支援教育の研修会に、補助教員、介助員、支援員が参加することにより、専門的指導や支援ができるよう取り組んでいます。また、県が実施する研修会にも積極的に参加するよう指導しています。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 特別支援学級に該当しない発達障がいのある児童生徒の支援、保護者の同意が得られないために、特別支援学級に入級できない児童生徒の支援、病気のため、日常生活の見守りが必要な児童生徒の支援のために、補助教員16名、介助員3名、支援員13名を配置し、子ども一人一人のニーズに応じた教育支援を実施しました。 教育センターが実施する特別支援教育研修会に教職員が参加することで、専門的な指導や支援が実施できよう取り組んでいます。				
今後の方向性	早い時期に特別支援教育の研修会を実施し、基礎的な理解を図るとともに、支援計画の作成、実施、評価について、学校訪問等で個別の指導を行っていきます。				
H26年度の課題	特別支援教育についての専門的な研修を継続して実施することにより、支援計画にそった計画的・組織的な取り組みを実施し、評価していくことが必要です。また、通常学級において支援が必要な児童生徒の状況が、発達段階や環境によって激変することがあり、それに対応するための補助教員の措置について検討する必要があります。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・就学前の指導も必要であると思います。 ・子どもは時代によって変わるので、早期の手当てが必要であると思います。 					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算・決算)	[7] 英語コミュニケーション能力の育成事業 (学校教育課：教務係) (予算： 22,713千円 決算： 22,438千円)				
目的	言語や文化についての体験的な理解を深め、英語によるコミュニケーション能力を養い国際感覚を身に付けさせることです。				
事業内容	国際的な共通語として英語によるコミュニケーション能力の育成や文化についての体験的理解を深めることを目的として、外国語指導助手(A L T)の活用による外国語活動の充実を図ります。				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 教員とA L Tが共同で授業を行うことにより、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図るとともに、教職員の指導力向上に取り組む必要があります。 【課題等への取り組み】 各中学校区に配置しているA L Tを活用し、教職員の指導力向上を図りました。また、小学校教員を対象に、研修会を実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 A L Tを各中学校区に1名配置し、小・中学校における外国語教育の充実を図ることができました。また、小学校教員を対象に、嘉麻市独自の研修会を実施し、外国語活動の充実に向けた指導力の向上を図ることができました。 外国語教育を更に充実させるため、平成25年度からはA L Tを業務委託から労働者派遣に変更することにより、T T (チームティーチング)による授業を行いました。				
今後の方向性	英語によるコミュニケーション能力の育成や文化についての体験的理解を深めるため、外国語教育の更なる充実、教職員の指導力向上のための取り組みを行います。				
H26年度の課題	教員とA L TがT T (チームティーチング)により、授業を行うことで、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図るとともに、教職員の指導力向上に取り組む必要があります。				
『評価委員の意見』 ・英語は慣れ親しむことが一番大事なことで、一層のコミュニケーション能力の育成が必要であると思います。 ・英語に親しむことは、とても良いことだと思いますが、その反面日本語の学習がおろそかにならないようにお願いします。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算・決算)	[8] 情報教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： 4,760千円 決算： 4,748千円)				
目的	児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるようにするため、情報教育の充実を図ります。				
事業内容	教育センターに情報教育推進教員1名、ICT支援員1名を配置し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成、情報モラル教育を行いました。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 問題解決に向けた追求活動を行うためには自分で調べ、情報収集を行うことが必要です。そのためICTを活用した、授業改善が必要となります。</p> <p>【課題等への取り組み】 情報教育推進教員1名、ICT支援員1名配置し、ICTを活用した授業改善、校務の電算化を推進しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ICT支援員の配置により、各学校の情報教育の充実に向けたサポート体制を整備し、通知表等の校務の電算化を推進し、学校ホームページを整備しました。また、児童生徒用のノートパソコンや電子黒板、地デジ化テレビの整備により、情報機器を活用した授業実践や研究を実施しています。				
今後の方向性	新学習指導要領に対応した情報機器の活用や情報モラル等の授業を行い、教員の情報活用能力の向上を図っていきます。また、各学校への情報教育の授業者として関わりを深め、全国の情報化サポート体制を検証していきます。				
H26年度の課題	問題解決的な学習の中で、調べ活動及び表現活動にICTを活用した学習の構築を進めるよう促します。また、LINEなどSNS（ソーシャルネットワークサービス）について、適切な利用の在り方の指導も必要となっています。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、情報に対するモラルの育成が必要であると思います。 ・メリット面だけではなく、デメリット面に対するマナー教育も必要だと思えます。 					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算・決算)	[9] 情報教育施設整備事業 (学校教育課：教育総務係) (予算：53,947千円 決算：50,768千円)				
目的	コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるように、情報教育を行うための情報機器の整備・維持管理を図ります。				
事業内容	市内小、中、高等学校(18校)のPC教室のパソコンリース及び保守並びに教育用PC(388台)及び校務用PC(274台)の保守を行い、情報教育の充実を図ります。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 嘉穂地区小中学校、PC教室内のPCのリプレイス及び嘉穂小学校のPC教室のPC設置や校務用PC等の移設を、授業に支障無く実施する必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 嘉穂地区小中学校のPC教室内のPCリプレイスや嘉穂小学校PC教室のPC設置及び校務用PCの移設も無事に完了しました。しかし、校務用PCのファイルサーバーが故障し、脆弱さが露見したため、早急に、ファイルサーバー等を強固にし、安全性を高めるためのシステムの構築等が必要となります。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
事務局 自己評価	<p>【自己評価の根拠】 平成22年度に、教育用PC及び校務用PCを整備し、国の基準を満たしています。</p> <p>校務用PCについては、1クラス30人学級が施行され、教職員数の増加に伴い不足が生じており、WindowsXP等のPCで対応していましたが、サポート等が終了するため、嘉穂地区PC教室リプレイス後のPC(Vista)を再利用し、対応しています。</p> <p>また、嘉穂地区小中学校のPC教室のPCリプレイス、及び嘉穂小学校のPC教室のPC設置並びに校務用PCの移設についても、校務に支障をきたすことなく設置できました。</p>				
今後の方向性	平成22年度に購入した校務用及び教育用PCが5年を経過するため、今後の方向性及び計画について検討を進めます。				
H26年度の課題	校務用PCのファイルサーバーの脆弱さが露見したため、早急に、ファイルサーバー等を強固にし、安全性を高めるためのシステムの構築等が必要となります。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応策が必要であると思います。 ・個人情報にかかわることなので、より一層の安全性に努めて下さい。 					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(3) 信頼される教員の確保と研修の充実

事業名 (予算・決算)	[10] 嘉麻市教育センター研修推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目的	教育センターを中心に、市の課題に応じた教職員及び教育研究団体等の教育研究を奨励するとともに、若年層の指導技術向上、教職員の資質向上に努めます。				
事業内容	教職員研修、授業充実研修、専門研修の実施、校内研修における指導助言を行います。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 若年者に対する研修内容、方法、時期、機会の更なる充実が必要です。学力向上の核となる、学力向上コーディネーター、学年主任の育成が必要です。</p> <p>【課題等への取り組み】 教育センター指導主事を中心に、教職員研修、授業充実研修、専門研修を実施し、教職員の授業力向上に努めました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 教育センターの指導主事を中心に、教職員研修の充実に努めました。指導主事の活用により、計画的・継続的な授業改善に取り組むことができています。少人数指導特別教員等の市費負担講師の増加、定数欠等の県費負担講師も増加しており、若年の講師が増えています。講師を対象とした研修も実施しており、今年の教員採用試験では12名が合格するなど、研修の成果が出ています。				
今後の方向性	公開授業の日程を集約、積極的に学校訪問し、指導を行うとともに、5年経過未滿の教員の授業力向上に向けた、指導を行っていきます。 教育センターに指導主事を配置し、教職員研修はすべて教育センターで実施します。				
H26年度の課題	引き続き、若年者に対する研修内容、方法、時期、機会の更なる充実が必要です。また、学力向上の核となる、教務主任研修を適宜行う等、授業力向上の取り組みが必要です。				
『評価委員の意見』 ・ 教員の指導力の向上の取り組みを強く希望します。 ・ 学年主任の育成に努めて下さい。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(3) 信頼される教員の確保と研修の充実

事業名 (予算・決算)	[11] 教職員人事配置事業 (学校教育課：教務係) (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目的	教職員の交流を図り、人事の適正化を進めます。また、地域の実態を踏まえ、学校間格差をなくす人事配置を実施します。さらに小・中学校連携の推進の観点から小・中学校の人事交流を行っていきます。				
事業内容	地域の実態を踏まえ、学校間格差をなくす人事配置を実施し、小・中学校の人事交流を行いました。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題など】 平成26年度の嘉穂小学校開校に向け、教職員数が定数内となるような計画的な人事配置が必要です。</p> <p>【課題等への取り組み】 嘉穂地区の小学校の統廃合のため、教職員数が定数内となるように、地域の実態や年齢構成に配慮した人事配置を実施しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉穂地区の小学校の統廃合のため、小学校の教職員が過員（定数を超える状況）にならないよう、人事配置を実施しました。そのため、平成26年度の教員数が定数内になるように配慮したため、小学校では新規採用はなく、中学校で5名の教員を新規採用しました。				
今後の方向性	<p>嘉穂地区小学校の統廃合による過員の解消はできましたが、中学校における教科欠の教員の補強が急務となっています。初任者の採用をはじめとした人事の拡充を推進する必要があります。</p> <p>また、今後も学校格差をなくす人事配置の実施とともに、同一校8年以上の教職員の計画的な人事配置が必要となります。</p> <p>嘉麻市外の学校に異動となる教職員が多く、指導力のある教職員を確保するためには、教職員研修を充実することにより、教職員の資質向上に努めます。</p>				
H26年度の課題	学校の活性化や特色ある学校づくりに対応できる、長期的な展望による人事の適正な配置が必要です。				
『評価委員の意見』 ・今後も引き続き、子どもたちのために信頼され、指導力のある教員の確保を期待します。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[12] 学校防犯体制整備事業 (学校教育課：教務係) (予算： 7,359千円 決算： 7,240千円)				
目的	児童生徒の安全管理のため、学校安全に関する取り組みの充実を図ります。				
事業内容	学校支援員(警察OB)を配置し、警察等関係機関と連携して生徒指導上の支援を行っています。地域学校安全推進員(スクールガードリーダー)による校内の定期的な巡回や見守り、安全マップの作成、防犯メールの配信により、学校の安全体制の整備充実を図りました。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 全国で登下校中の児童生徒が巻き込まれる事故が相次いでいます。通学路の安全点検、危険箇所の改善要望の継続、安心メールにより、不審者事案への早期対応を行うことにより、児童生徒が安全に登下校できるよう対策を講じる必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 学校支援専門員、スクールガードリーダー、地域ボランティアによる通学路での安全指導を実施し、交通事故の防止に努めました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 学校支援専門員、スクールガードリーダーの配置、防犯メールの全校実施により、学校防犯体制の整備は進んでいます。学校支援専門員と警察等関係機関との連携により、迅速な生徒指導対応ができました。 不審者事案が発生した場合は、学校支援員と警察が連携して、巡回等を行うことにより、深刻な事態に発展しないよう対応しています。				
今後の方向性	生徒指導問題や不審者の増加など、防犯体制の更なる充実が必要であり、今後も引き続き学校支援専門員を中心に関係機関との連携を図り、学校安全に関する取り組みを行います。また、防犯メールの普及により、地域への防犯意識を深めていきます。				
H26年度の課題	通学路の安全点検、危険箇所の改善要望の継続、安心メールにより、不審者事案への早期対応を行うことにより、児童生徒が安全に登下校できるよう対策を講じる必要があります。				
『評価委員の意見』 ・通学路の危険箇所の改善策が必要であると思われます。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[13] 通学対策事業 (学校教育課：教務係) (予算： 3,732千円 決算： 3,341千円)				
目的	学校の統廃合に伴い、遠距離通学することになった児童生徒の通学費の負担を軽減します。				
事業内容	学校の統廃合に伴い、遠距離通学することになった児童生徒の通学費の負担を軽減するため、通学費の補助、スクールバスの運行を行っています。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 遠距離通学する児童生徒の安全確保と保護者の通学費の負担を軽減することが必要です。</p> <p>【課題等への取り組み】 バスの定期券の購入費用の補助、スクールバス運行による生徒の送迎を行っています。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 稲築西小学校、嘉穂中学校に通学する児童生徒のうち、遠距離通学している児童生徒のバス定期券の購入費用の補助を行いました。また、嘉穂中学校でスクールバスを運行し、遠距離通学となる生徒の送迎を行っています。				
今後の方向性	引き続きバス定期券の購入費用の補助を行います。また、平成26年に開校した嘉穂小学校及び嘉穂中学校のスクールバスの運用について協議します。 また、市内の小学校において、通学定期券購入の補助率に格差が生じており、今後は、格差是正について調整が必要です。				
H26年度の課題	平成26年に開校した嘉穂小学校と嘉穂中学校のスクールバスと運用方法について協議が必要となります。				
『評価委員の意見』 ・ 嘉穂小学校のスクールバスの運行の均等化や通学路の見直しの検討を希望します。 ・ 公平性を客観的な指標で説明できることが大切だと思います ・ 今後の課題として、学区の見直しも必要であると思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[14] 学校施設維持管理事業 (学校教育課：教育総務係) (予算：426,549千円 決算：139,607千円)				
目的	すべての児童、生徒が安心・安全な環境において、生活(学習)できるよう 小中学校の補修、修繕、草刈等環境整備を実施し、施設維持の管理を行います。				
事業内容	市内小、中学校 17 校(小学校 12 校、中学校 5 校)の施設整備及び維持管理 ・施設修繕及び補修工事 碓井小学校法面整備工事、稲築西小学校駐車場整備工事 等 ・施設維持管理業務委託(草刈、清掃、樹木剪定、浄化槽維持管理等)				
H25年度 の課題と 取り組み	【課題等】 ・安心、安全な教育環境を維持するために、緊急性を要するものから施設の 整備を行います。 ・市内小中学校において慢性的な駐車場不足のため、近隣住民とのトラブル や交通事故等が多発しており、駐車場の整備が必要です。 【課題等への取り組み】 ・緊急性の高いものから施設整備を実施し、安全性の確保に努めています。 ・稲築西小学校駐車場整備を行い、当該学校周辺での違法駐車は解消に努め ました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
安心で安全な教育環境を整備するために必要な事業です。 今年度は、碓井小学校法面整備、稲築西小学校駐車場整備等を施工し教育環 境の整備に努めました。また、牛隈小学校の大規模改修工事の実施設計を行い、 大規模改修工事実施のための取り組みを進めました。 引き続き安心、安全な環境整備を優先的に実施していきませんが、経年劣化に よる修繕箇所の増加は著しく、今後は、順次計画的に大規模改修工事を行う必 要があります。					
今後の 方向性	大規模改修工事のための調査、検討を行い、年次計画的に1校ずつ実施しま す。				
H26年度 の課題	市内小中学校の慢性的な駐車場不足は解消できていません。近隣住民とのト ラブルや交通事故等の防止のため、引き続き駐車場の整備が必要です。 大規模改修工事及び修繕を計画的に実施していきます。				
『評価委員の意見』 ・駐車場の整備により、嘉麻署における調査結果は駐車違反は無しと効果がありました。 ・校舎内外の点検、危険箇所の点検が必要です。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(A)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[15] 大隈城山校維持管理事業 (学校教育課：教育総務係) (予算：15,491千円 決算：13,422千円) ※情報機器整備事業費を除く				
目的	すべての生徒が安心・安全な環境において、生活(学習)できるよう、校舎等の適切な維持管理を行います。				
事業内容	大隈城山校の施設整備及び維持管理(建築年度：昭和61年度)				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次計画的に老朽化した施設の整備を実施します。 <p>【課題等への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備では、視聴覚教室暗幕取替え等を行うとともに、清掃業務や浄化槽維持管理業務等を適切に実施しました。 				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 大隈城山校は、地域の高等教育機関の教育の場として大きな役割を果たしています。今年度は視聴覚教室の暗幕張替を行うなど、施設の整備を行いました。今後も老朽化した施設の整備を継続的に実施し、安心、安全な教育環境の維持管理に努めます。				
今後の方向性	生徒が、快適な環境の中で落ち着いて学習に望めるように、安心、安全な教育環境の整備を実施します。				
H26年度の課題	引き続き、年次計画的に老朽化した施設の整備を図る必要があります。				
『評価委員の意見』 ・地域の高等教育機関の教育の場として、大切な学校なので存続をお願いします。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(5) 嘉穂小学校施設整備の推進

事業名 (予算・決算)	[16] 嘉穂小学校開校準備審議会運営事業 (嘉穂小学校開校準備室：小学校開校準備係) (予算： 1, 407千円 決算： 703千円) (繰越予算： 800千円 決算： 350千円)				
目的	嘉穂地区の5小学校(大隈小、宮野小、足白小、千手小及び泉河内小)を1つに統合し、新たに設置する嘉穂小学校の開校準備等について議論するために、PTA及び地域代表者により構成される審議会を円滑に運営することです。				
事業内容	平成24年5月に3つの内容について諮問し、審議会において審議を行ない、諮問第1号については、平成24年度に答申が出され、残り諮問第2、3号について継続審議を行いました。 [諮問第2号]校章案及び校歌案について [諮問第3号]統合対象小学校の跡地の利活用案について				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 審議会運営の外、通学対策準備委員会、跡地利活用意見交換会、閉校記念式典準備委員会等、閉校又は開校に関し様々な事業の最終調整を行います。 【課題等への取り組み】 諮問第2、3号については、審議会から平成25年9月25日付けで答申が出され、それを受け、通学対策準備委員会、跡地利活用意見交換会、閉校記念式典準備委員会等、閉校又は開校に関し様々な事業の最終調整を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 小学校統合に関しては、市民と協働による手法で様々なことを決定していくことが嘉麻市教育委員会の基本方針であり、審議会との協議は重要です。 事業の効果については、審議会からの答申を受け、通学対策準備委員会等様々な委員会の意見収集及び協議を重ね、嘉穂小学校を開校することができました。 跡地利用については、地元との調整が終了していない学校があるため、新たな所管課にて、引き続き協議が必要です。				
今後の方向性	平成26年4月に嘉穂小学校は開校したため、この事業は完了しました。				
H26年度の課題	/				
『評価委員の意見』 地域の方の声					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は跡地利活用を分かり易くしてもらって、地域の方の声を生かして貰いたいと思います。 ・ 嘉穂小学校の開校に向け、協働による学校づくりの方針のもと素晴らしい事業であったと思います。 ・ 跡地についても市の課題として、担当部署へ引継ぎをお願いします。 					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(5) 嘉穂小学校施設整備の推進

事業名 (予算・決算)	[17] 嘉穂小学校建設事業(嘉穂小学校開校準備室:小学校建設係) (予算: 1,353,207千円 決算: 1,156,734千円) (繰越予算: 465,238千円 決算: 115,229千円)				
目的	嘉穂地区にある5つの小学校を1つに統合し、新たに設置する嘉穂小学校の具体的な整備を行うことです。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・造成工事 ・小学校建設工事 				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 平成25年度内に建設工事及びその他工事を完了させることが課題です。</p> <p>【課題等への取り組み】 全ての工事が平成25年12月25日に竣工し、平成26年4月に開校いたしました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 全ての工事が完了し、平成26年4月に開校することができました。				
今後の方向性	平成26年4月に嘉穂小学校が開校したため、この事業は完了しました。				
H26年度の課題	/				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[18] 学校関係者評価事業 (学校教育課：教務係) (予算： 740千円 決算： 324千円)				
目的	教育活動等の成果の検証とその客観性・透明性の確保を通じて学校運営の改善と発展を目指します。				
事業内容	保護者、地域住民等の連携強化のために学校関係者評価を全校で実施し、評価結果を公表しています。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 学校運営改善と発展を目指し、保護者、地域住民等の連携強化のために学校関係者評価を全校で実施し、学校評価結果、改善策の公表を学校HPで行う必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 学校関係者評価を全校で実施し、学校HPで結果をすべて公表しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 すべての学校で学校関係者評価の実施・公表・報告が行われましたが、公表の方法や内容については更なる工夫が必要です。また、評価項目についても、各学校の重点施策に併せた絞込みが必要です。				
今後の方向性	年度初めにおける学校経営方針等の保護者等への公表や、学校関係者評価の結果の公表について、周知方法の工夫が必要です。				
H26年度の課題	学校運営改善と発展を目指し、学校関係者評価における学校評価結果、改善策の公表を引き続き学校HP等で行い、自己評価の質の向上と、保護者・地域住民に学校をよく知ってもらい、連携協力のきっかけをつくるような周知の在り方が必要です。また、評価の内容や項目等に対する意見等を収集する方法についての検討が必要です。				
『評価委員の意見』 ・評価をふまえた学校の課題をどのように改善していくかが重要であり、評価だけに終わらないことが必要です。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[19] 学校開放事務事業 (学校教育課：教育総務係) (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目的	生涯学習社会における、文化、スポーツ等の地域活動の場として、学校施設を開放することにより地域住民の生涯学習の推進を図ります。				
事業内容	学校教育に支障のない限りにおいて、市内小、中学校17校(小学校12校、中学校5校)の体育館及び運動場等の施設を開放します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用申請時の受付の簡素化を行います。 <p>【課題等への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者説明会に参加した団体については、説明会において学校関係者と日程等の調整を行い、申請書の提出を説明会終了後に提出できるように改善しました。 				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】</p> <p>市内の社会体育施設(主に体育館)の利用は平日の夜間利用に集中するため、継続した運動機会を確保するためにも、学校施設の開放は非常に効果が高いものであります。</p> <p>申請受付から許可書発行までの手続きの簡素化に努めていますが、まだ煩雑で時間を要するため、許可書発行までの簡素化が必要です。</p>				
今後の方向性	生涯スポーツの推進に寄与するため、学校教育に支障のない限りにおいては、継続して施設の開放を行っていきます。				
H26年度の課題	申請書の見直し等を行い、許可書発行までの事務の簡素化を検討します。				
『評価委員の意見』					
・施設開放は大変に良いと思うが、防犯上の問題を利用者団体に十分周知することを希望します。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(7) 小中連携教育への取組み

事業名 (予算・決算)	[20] 小・中連携・一貫教育研究事業 (学校教育課：教務係) (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目的	研究開発校や構造改革特区における小中一貫教育の取り組みの成果を踏まえ、カリキュラム区分の弾力化など小中学校間の連携・接続を改善するための仕組みについて種々の観点に配慮しつつ十分に研究していきます。また、小中学校間の教職員の人事交流や共同研究、小中連携した学力向上の取り組み、生徒指導の連携などを図ります。				
事業内容	小中学校間の教職員の人事交流や共同研究を通して、小中連携を推進しています。				
H25年度の課題と取組み	<p>【課題等】 先進地視察等を通して、小中連携に取り組む組織作りを行い、授業内容の連携を通して、更なる小中連携教育を推進する必要があります。</p> <p>【課題等への取組み】 小中学校間の教職員の交流を実施し、小中連携に向けた各中学校区での取り組みの推進を図るようにしました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 小中学校間の教職員の交流を実施しました。 嘉麻市を4つのブロックに分け、小中連携に取り組む組織作りを行い、授業内容の連携を通して、小中連携教育を推進しました。				
今後の方向性	小中連携教育や小中一貫教育のあり方について嘉麻市教育委員会としての基本的な考え方や方策を取りまとめる必要があります。				
H26年度の課題	先進地視察等を実施して、小中連携に取り組む組織作りを行い、授業内容の連携を通して、更なる小中連携教育を推進する必要があります。				
『評価委員の意見』 ・小中学校の教職員の交流を実施し、授業内容だけでなく情報交換を密にしてください。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算・決算)	[21] 就学援助事業 (学校教育課：教務係) (予算： 76,282千円 決算： 74,532千円)				
目的	学校教育法第19条に、「経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童又は学齢生徒の保護者に対しては、市町村は、必要な援助を与えなければならない。」と規定されており、経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。				
事業内容	経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 嘉麻市内には経済的理由により就学が困難な児童生徒が約4割在籍しており、該当児童生徒の把握、適正な支援が必要です。</p> <p>【課題等への取り組み】 生活保護基準の見直し（保護費の減額）に伴い継続して援助が受けられるよう規則の改正を行いました。 広報紙、児童生徒へのチラシの配布等により、就学援助の申請時期等を周知することにより、援助の必要な保護者に申請を促しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を負担しています。就学援助事業につきましては、広報紙、チラシ等を配布することで、周知しました。</p>				
今後の方向性	生活保護基準の見直しも行われており、就学援助につきましても、支援の必要な家庭に援助を行います。				
H26年度の課題	生活保護基準の見直し（保護費の減額）が行われるため、近隣市町村の状況を確認しながら認定基準を検討します。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算・決算)	[22] 奨学金事業 (学校教育課：教育総務係) (予算：21,607千円 決算：21,408千円)				
目的	嘉麻市独自の奨学金制度により、高等学校や大学等に進学、修学するための奨学金を貸し付け、経済的理由による、修学困難者の軽減を図ります。				
事業内容	嘉麻市奨学資金貸付及び返還に関する業務 (貸与中の人数：47人) (返還中の人数：182人)				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞納者に対し督促等を随時行い、徴収率の向上を図る必要があります。 また、滞納を未然に防ぐとともに、納付相談等を実施し、滞納者や滞納額の増加を抑制する必要があります。 <p>【課題等への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口座振替制度を推進し、返還金徴収の向上に努めました。 				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 奨学金制度を広報に掲載するとともに、中学校、高等学校に周知を行い、新規に17名の貸付を行いました。 また、返還事務については、口座振替等を推進しましたが、嘉麻市奨学金返還の収納率は、平成24年度52.1%に対し、平成25年度49.6%と約2.5ポイント下降しました。				
今後の方向性	幅広く奨学資金貸付事業の周知を行い、経済的な理由により、就学が困難な家庭の支援を引き続き実施します。また、滞納者に対し、随時督促をし、返還金徴収の向上に努めます。				
H26年度の課題	滞納者の実態調査や納付相談を行い、個々に応じた督促等を行い、徴収率向上に努めます。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・就学が困難な方に対しての周知と回収について最大限の努力を希望します。 ・納付相談を積極的に取り組み、個々に応じた対応を行う必要があると思います。 					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算・決算)	[23] 幼稚園就園奨励費支給事務事業 (学校教育課：教育総務係) (予算： 33,506千円 決算： 33,096千円)				
目的	幼稚園教育の一層の普及充実を図るため、幼稚園に就園させている世帯に対し、保護者の所得状況に応じて、保育料等の支払の経済的負担の軽減を図ります。また、普及を図るため、広報等により情報を発信します。				
事業内容	私立幼稚園の設置者が当該幼稚園に在園する保護者に対して保育料の減免措置を行った額を補助しています。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の施策であり、国の補助基準額に基づき、補助を実施しています。国からの補助率は1/3であるため、補助基準額や申請者数が増加することにより市の負担額が増加します。 <p>【課題等への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の基準により、補助金の交付を実施しました。 				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 国の補助基準に基づき、速やかに補助金の交付事務を実施することができました。				
今後の方向性	この制度は、保護者の経済的な負担の軽減を図り、公立、私立幼稚園の保護者負担の格差を是正することを目的とした国庫補助制度であり、子育て支援の施策として、今後も継続的に実施します。				
H26年度の課題	国の施策であり、国の補助基準額に基づき、補助を実施しています。国からの補助率は1/3であるため、補助基準額や申請者数が増加した場合は、市の負担が増加するため、それに対応する必要があります。				
『評価委員の意見』 ・申請者数の増加により市の負担額が増加しても、今後も継続を希望します。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算・決算)	[24] 道徳教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目的	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図りながら、豊かな自然・社会体験を通して児童生徒の内面に根差した道徳性の育成を図ります。				
事業内容	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図りました。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 道徳の時間を適切に実施、充実するよう、各学校に規範意識が育った子どもの姿を3点示し、各学校でそれに近づけるよう促すなど、指導・助言を繰り返し、行っていく必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 嘉麻市教育委員会の重点目標の一つに「規範意識の醸成」を掲げ、各学校それに基づき、道徳の授業の充実に努めました。また、市内小・中学校で道徳の学習時間の授業参観を実施しています。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 市内小・中学校において、道徳教育副読本の整備を行い、道徳教育副読本を活用した授業を行うことにより、道徳教育の充実に努めました。また、市内小・中学校で道徳の学習時間の授業参観を実施しています。</p>				
今後の方向性	学校における道徳の時間を充実させるため、今年から「規範意識」と「セルフイメージ」の向上に視点を置きながら進めていきます。				
H26年度の課題	道徳の時間を適切に実施、充実するよう、各学校に規範意識が育った子どもの姿を3点示し、各学校でそれに近づけるよう促すなど、指導・助言を繰り返し行っていく必要があります。また、今年度から文部科学省から「私たちの道徳」が配布されており、今後の活用を促していく必要があります。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な視点を持ち、模擬授業を体験しながら実情に応じた道徳教育を定着する必要があると思います。 ・ 命を大切にする教育の推進をお願いします。 					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
 (1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算・決算)	[25] キャリア教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： 177千円 決算： 177千円)				
目的	家庭や地域と連携して、職業・職場体験活動等を行い、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、望ましい勤労観、職業観を育てます。				
事業内容	市内の中学校において、総合的な学習の時間の中で、職場体験を実施します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 受け入れの事業所の拡大と、協力事業所との打ち合わせ会、指導内容、職場体験日数の検討などに取り組むことが必要です。</p> <p>【課題等への取り組み】 校区内・市内の協力事業所を開拓し、実施することで、地域と連携した活動にする必要がありますが、市内に生徒を受け入れてくれる事業所が少なく、地域と連携した活動については課題が残っています。しかし、職場体験学習を市内すべての中学校で実施しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 職場体験学習(2日～3日)を市内の全中学校で実施し、生徒の職業観や進路選択に向けた意識に変容がみられるなど、期待通りの効果が上がっています。 一方、協力事業所の校区内・市内での掘起しには、まだ検討の余地があります。				
今後の方向性	学校の指導のもと、生徒自らが体験場所を探し、交渉して実施するなど、自分の力で探究していく力を付けていくような学習になるようにしていきます。				
H26年度の課題	受け入れの事業所の拡大と、協力事業所との打ち合わせ会、指導内容、職場体験日数の検討などに取り組むことが必要です。				
『評価委員の意見』 ・職場体験学習において、事前学習と事後学習が必要です。 ・必要な事業なので、今後も継続して下さい。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもったたくましく生きる力を培う教育の推進
 (1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算・決算)	[26] ボランティア活動推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目的	家庭や地域社会と連携して、児童生徒が他の人々や社会のために役立つとともに自分が価値のある存在であることを実感し、よりよく生きるための道徳的実践力の育成を図ります。				
事業内容	市内全小中学校において、ボランティア活動を計画的に実施します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 各学校においてボランティア活動が定着してきており、今後は地域や家庭の協力を得るなど、地域社会と連動した活動にしていく必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 各学校のボランティア活動の様子を、家庭や地域に積極的に発信しており、地域社会と連動した活動になるよう取り組みました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域の清掃活動、河川清掃、赤十字活動等、各学校の特色を活かしたボランティア活動を実施しており、各学校においてボランティア活動が定着してきています。				
今後の方向性	地域社会の活動と連動したボランティア活動の実施を推進していきます。また、併せて学社連携融合事業と連携した取り組みを検討する必要があります。				
H26年度の課題	各学校においてボランティア活動が定着してきていますが、今後は地域や家庭の協力を得るなど、地域社会と連動した活動にしていく必要があります。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> 活動を推進する面での、高校との連携を行い、ボランティアの有り様を検討して頂きたいと思えます。 学校での周知の強化が必要であると思えます。 					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算・決算)	[27] 学校保健事業 (学校教育課：教務係) (予算： 25,010千円 決算： 22,879千円)				
目的	家庭、地域及び関係機関等の連携・協力により、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。また、事故、加害行為、災害等により、児童生徒に危険又は危害が生じた場合の対処として、災害共済に加入します。				
事業内容	児童生徒、教職員の健康診断を実施します。市内の小中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置し、児童生徒の保健、安全に関する指導を行います。また、各学校において学校保健・安全に関する年間計画を作成し、適切に実施するよう指導助言を行います。 災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行います。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 法令に則り、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。</p> <p>【課題等への取り組み】 要精密検査対象者の医療機関受診奨励等を行い、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図りました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 児童生徒、教職員の健康診断を実施しました。市内の小中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置し、児童生徒の保健、安全に関する指導を行いました。また、各学校において学校保健・安全に関する年間計画を作成し、適切に実施するよう指導助言を行いました。 災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行いました。				
今後の方向性	法令により実施しているものであり、今後も引続き実施していきます。				
H26年度の課題	法令に則り、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算・決算)	[28] 学校給食運営事業 (学校教育課：教育総務係) (予算：245,049千円 決算：236,439千円)				
目的	嘉麻市内小中学校で完全給食を行い、学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、魅力ある学校給食の充実に努めます。また、「食育」に関する授業の実施で「食事の重要性」等を身につける教育を支援します。				
事業内容	嘉麻市内全小中学校で、完全給食を実施しています。衛生管理の徹底を図るために、施設の改修及び調理員を対象とした衛生管理研修を実施しています。食育に関しては「食育の日」「食育月間」はもとより、年間を通じて学校毎に実態に応じた取り組みを行っています。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消を継続推進し、利用率の向上を目指します。 ・安全・安心な給食の提供を行うため、保健所等による衛生管理立ち入り調査にて指摘された事項について対応していきます。 <p>【課題等への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元直売所を活用し、地場産の利用率向上に努めました。 ・保健所指導により、手洗い器に温水が出るように改善し、衛生管理の更なる徹底を図りました。 				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】</p> <p>年間給食回数185回を基準に実施し、1日約3,500食の調理提供を行いました。</p> <p>地産地消の推進に関しては、例年同様に地元直売所を通じ、地場産の利用に努めましたが、地場産利用率は15.6%で前年度に比べ10.71ポイント下降しました。</p>				
今後の方向性	学校給食法第4条、義務教育諸学校の設置者の任務に基づき学校給食施設の維持管理及び給食の実施を継続していきます。 安全・安心な給食の実施、食育の充実に努め、併せて地産地消を推進します。				
H26年度の課題	衛生管理の徹底及び安全・安心な給食の実施、及び多様化するアレルギーに対してでも対応する必要があります。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消について減少しているが、今後も積極的な推進を望みます。 ・家庭的な味わいと、安全の確保が必要なアレルギー対策の面から、全校自校方式を希望します。 					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
 (2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算・決算)	[29] 学校給食費算定及び収納事業 (学校教育課：教育総務係) (予算：541千円 決算：391千円)				
目的	学校給食費は賄材料費の購入に要する経費のみを保護者負担としており、安全・安心な食材の購入等を行うための算定を行います。 また、受益者負担の公平性を確保するために、徴収業務を行います。				
事業内容	栄養バランスのとれた食材の購入ができるよう予算管理を行っています。 受益者負担の公平性を確保するため、給食費徴収業務を行っています。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 保護者の公平な給食費負担を目指し、収納率の向上に努めます。</p> <p>【課題等への取り組み】 収納率向上への取り組みとして、未納通知や催告書を発送するとともに、訪問による徴収も実施しました。高額未納者に対しては、納付誓約書や児童手当からの引去りの同意書の提出により、分割納付や児童手当からの引去りを実施しています。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 未納通知や催告書の発送、訪問徴収等収納率向上への取り組みを実施しました。 現年度(H25)の収納率は98.28%で前年度に比べて0.62ポイント、過年度の収納率は25.67%で6.53ポイント上昇しました。</p>				
今後の方向性	引き続き、受益者負担の公平性を図るため、徴収業務を実施します。				
H26年度の課題	消費税増税に伴う給食費の適正な算定の実施及び保護者の公平な給食費負担を目指し、更なる収納率向上に努めます。				
『評価委員の意見』 ・過年度の収納率のさらなる向上を期待します。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(3) 家庭・地域・学校における読書活動推進

事業名 (予算・決算)	[30] 読書活動推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： 30,346千円 決算： 28,798千円)				
目的	児童生徒の学習や読書意欲を高めるため、市立図書館や嘉麻市学校図書館協議会等との連携を図りながら、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めるとともに、組織的、継続的な読書活動の推進に努めます。				
事業内容	図書館の管理運営、図書教育の指導補助、図書の受け入れ、貸し出し業務、書架の整理、廃棄業務、教科用図書関係事務等を行うため、図書司書13名を配置し、学校図書館の整備、充実に努めています。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 図書館の整備や読書活動の充実が図られるようになっており、朝読書や読み聞かせ等の読書活動を組織的、継続的に推進していく必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 嘉穂地区小学校が統合後は、各小中学校に図書司書が配置できる人数を確保できました。各学校において、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めています。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉穂地区小学校が統合後は、各小中学校に図書司書が配置できる人数を確保できたことにより、学校図書館の整備状況や読書活動が不十分であった学校において、図書館の整備や読書活動の充実が図られるようになりました。朝読書や読み聞かせ等の読書活動を行うなど、組織的、継続的な読書活動の推進に努めました。				
今後の方向性	すべての学校に図書司書を配置し、図書館教育担当教諭や司書教諭と連携しながら効率的・機能的な図書館運営を推進します。				
H26年度の課題	図書館の整備や読書活動の充実が図られるようになっており、朝読書や読み聞かせ等の読書活動を組織的、継続的に推進していく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・更に内容の充実を図り、事業を継続して下さい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算・決算)	[31] 適応指導教室(れすとぴあ)推進事業(学校教育課:教務係) (予算: 6,431千円 決算: 5,734千円)				
目的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰を支援し、不登校児童生徒数の減少に取り組みます。教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
事業内容	教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 学校と教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組み、年々増加している不登校児童生徒数を減少させることが必要です。</p> <p>【課題等への取り組み】 不登校傾向、不登校の児童生徒の学校復帰を支援するため、集団生活への適応指導、教育相談等を行いました。また、特別支援学級に在籍する生徒の通級対策として補助教員を1名増員しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 適応指導教室に4名の適応指導教室指導員兼相談員を配置し、適応指導、教科指導、教育相談等を行いました。平成25年度は適応指導教室(れすとぴあ)に10名の児童生徒が在籍し、そのうち1名が学校に復帰しました。中学3年生は2名在籍しており、学校復帰はならなかったものの、適応指導教室での教科学習等の指導の結果、1名が高校進学、1名が就職をしています。				
今後の方向性	学校と教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組み、年々増加している不登校児童生徒数を減少させることが必要です。				
H26年度の課題	適応指導教室(れすとぴあ)の児童生徒が在籍する小中学校との連携を強化し、学校へ復帰するための取り組みを図る必要があります。				
『評価委員の意見』 ・子ども達にとっては、大事な事業であるので、今後も継続して希望します。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
 (4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算・決算)	[32] 教育相談推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： 5,484千円 決算： 5,180千円)				
目的	いじめや不登校、暴力行為などの問題行動を起こした児童生徒に対して、専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーがカウンセリングを行い、スクールソーシャルワーカーが中心となって関係機関と連携を取りながら問題解決にあたります。				
事業内容	嘉麻市教育センターにスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、不登校等の未然防止に向けて支援を行います。また、必要に応じて、保護者や教員等の教育相談を実施します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 いじめ・不登校の問題は、年々複雑になっており、専門的知識をもった職員の助言等が必要となっています。教育相談について組織的な体制を整え、学校を支援していく必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 スクールカウンセラーによる教育相談、スクールソーシャルワーカーによる関係機関との連携により、いじめ・不登校の解消、未然防止に取り組みました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 教育センターにおける教育相談件数は101件。その他、学校からの要請を受け、児童生徒や教職員を対象に教育相談を行っています。いじめ・不登校への対応については、学校だけでは対応が難しい場合もあり、スクールソーシャルワーカーを中心として、児童相談所やこども育成課等の関係機関と協力しながら、問題解決に当たっています。				
今後の方向性	学校と教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組み、さらに不登校児童生徒数を減少させることが必要です。				
H26年度の課題	いじめ・不登校の問題は、年々複雑になっており、引き続き専門的知識をもった職員の雇用が必要となっています。また、教育相談についての組織的な体制を整え、学校を支援していくことが必要です。				
『評価委員の意見』 ・スクールソーシャルワーカーの更なる強化が必要だと思えます。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算・決算)	[33] 学校支援相談員(旧：ひきこもり訪問指導員)配置事業 (学校教育課：教務係) (予算： 7, 294千円 決算： 7, 294千円)				
目的	家庭にひきこもりがちな不登校児童生徒に対して、児童生徒の抱える心の問題を理解し、積極的に取り組む意欲を有する訪問指導員を派遣します。ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安を解消し、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援します。				
事業内容	不登校及び不登校傾向の児童生徒宅を訪問し、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 昨年度は、不登校児童生徒数が減少しており、1名増員した指導員を有効活用することにより、不登校解消の取り組みを今後の組織的に行う必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 学校支援相談員を3名配置し、家庭訪問等を行い、不登校傾向の児童生徒を未然に防ぐことができました。また、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 学校支援相談員を3名配置し、家庭訪問等を行うことで、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援しました。 適応指導教室への通級、学校復帰者の増加、欠席日数の減少等、不登校解消に向けての成果は出ています。平成23年度までは増加傾向にあった不登校児童生徒数ですが、平成23年度が119名、平成24年度が109名、そして平成25年度が76名と大きく減少に転じました。</p>				
今後の方向性	学校と教育センターが更なる連携をし、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組み、さらに不登校児童生徒数を減少させることが必要です。				
H26年度の課題	平成25年度に不登校児童生徒数が大きく減少に転じており、今後も不登校解消の取り組みを組織的に行う必要があります。				
『評価委員の意見』 ・相談員が家庭の中での、人間関係を作るまで時間がかかり、大変な事業だと感じています。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
 (5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	[34] 地域教育資源活用事業 (学校教育課：教務係) (予算： 1, 179千円 決算： 940千円)				
目的	学習指導要領の趣旨を踏まえ、各学校の創意を生かした教育課程を編成し、地域社会の現状を踏まえ、児童生徒の学習に協力することのできる地域の人材や施設を生かし、教育活動を行います。				
事業内容	専門的な知識や経験を持っている人から話を聞いたり、技術を見せてもらったりする体験は、子どもたちの学びを深める上で、たいへん効果的であります。地域の人材を外部講師として招き、農業体験や物づくり指導を推進します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 人材バンクの積極的な活用を啓発することで、ゲストティーチャー等の地域教育資源を活用した学習を推進する必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 市内の学校に人材バンクの積極的な活用を啓発することにより、各学校の特色にあわせた外部講師を招き、教育活動を行っていました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 専門的な知識や経験を持っている人から話を聞いたり、技術を見せてもらったりする体験は、子どもたちの学びを深める上で、たいへん効果的であり、地域の人材を外部講師として招き、農業体験や物づくり指導を受けるなどの、地域教育資源を活用した教育活動を展開しました。				
今後の方向性	新学習指導要領の趣旨に沿った総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し及びゲストティーチャーの活用計画の作成、実施、評価を行うよう促します。				
H26年度の課題	人材バンクの積極的な活用を啓発することで、ゲストティーチャー等の地域教育資源を活用した学習を推進する必要があります。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	[35] 学社連携融合事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： 3千円 決算： 3千円)				
目的	家庭、学校、地域が子どものために連携し、効果的に事業を取り組めるよう良好な関係づくり、意識の共有・向上、共同で行う事業の推進を目指します。				
事業内容	家庭、学校、地域が一同に介し、子どもたちの健全育成のために意見交換を実施し、その中で出された課題や意見に対し、具体的な事業にまで取り組むことができました。(通学路対策、あいさつ運動など)				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 家庭、学校、地域ともに、意見交換を行うものの、課題の取り組むなどについて、具体的な役割分担まではできていません。</p> <p>【課題等への取り組み】 意見交換では、具体的な役割分担まで掘り下げた協議を行いました。その結果、事業が効果的に推進できたとともに、実際に事業に取り組む上で、お互いが「できること」「できないこと」について、意識の共有に繋がりました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 各地区で意見交換を実施するにあたり、家庭、学校、地域が加入している青少年育成住民会議などを中心に実施しました。そうすることで、行政主体ではなく、家庭、学校、地域が主体的に取り組むことができたのではないかと思います。 しかし、組織全体まで活動を普及できず、ある一定の方々に負担がかかっているため、効果は十分ではありませんでした。				
今後の方向性	今後は、意見交換も実施しますが、その中で出た課題や意見について、具体的な事業の取り組みを重点的に行います。				
H26年度の課題	意見交換会出席者だけではなく、家庭、学校、地域全体で子どもたちを見守れる土壌作りが必要です。				
『評価委員の意見』 ・全体での意見交換会と地域での意見交換会を積極的に開催し、組織全体の活動が必要だと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(A)		

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	[36] 家庭教育支援事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： 410千円 決算： 391千円)				
目的	乳幼児から思春期の子どもを持つ保護者に対し、さまざまな学習の機会や情報を提供することで家庭の教育力の向上を図ります。				
事業内容	子育て支援講座、親子がふれあえるミニプレーパーク事業、学校等へ家庭教育に関する情報提供、地域における家庭教育新事業を実施します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 家庭教育支援事業における様々な事業へ、男性の参加が少ない状況です。また、事業自体にボランティアの関わりが少なく、行政が主体的に実施しています。</p> <p>【課題等への取り組み】 男性保護者向けの講座を7月に実施し、定員を超える参加者がありました。また、ミニプレーパークにおいては、市内にある高校2校からのボランティアが定期的に参加してくれるようになりました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 子どもの学力向上や健全育成には、家庭の教育力が基盤となります。家庭の教育力向上のために、多様な講座や情報提供を行い、多くの市民に対し、家庭教育支援を行う事が出来ました。				
今後の方向性	ゲーム機・学習教材タブレット・スマートフォンの急速な普及で子ども達の生活にも深く浸透し続け、子どもの発達に及ぼす影響は計り知れません。また、家庭教育の要である愛着まで揺るがされています。子ども達への影響を家庭、学校、地域で考えていくため、講座や情報提供を行っていきます。				
H26年度の課題	SNSの普及のため、子どもたちのトラブルが増えているが実態の把握は進んでいないため、子どもたちの状況を知るためにアンケート等の実施が必要です。その一方電子メディアの普及から起こる子育て家庭の孤立防止のための講座とその支援体制の整備も必要となります。				
『評価委員の意見』 ・子どもたちへ携帯電話等の機器の使い方と保護者向けの教育も必要だと思います。 ・実態の把握を早急に実施して下さい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	[37] 青少年健全育成事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： 3,782千円 決算： 3,455千円)				
目的	青少年の健全育成のための啓発活動並びに関係機関との連携・協力を図り、青少年の非行防止に努めます。				
事業内容	嘉麻市少年相談センターとして、関係機関と連携しながら青少年並びに保護者等からの相談に対応しています。また、補導委員を委嘱しており、その方々への研修会の実施や不審者対策などを共に行いました。 独自事業として、ウォーキングパトロール事業では、地域の方々の散歩やウォーキングを子どもの登下校時に行っていただけよう、補導委員と周知活動等を行いました。				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 市民に対する少年相談センター、補導委員の周知が不足しています。また、補導委員の中堅層の確保について、嘉麻警察署や補導委員と協議が必要です。 【課題等への取り組み】 市報や嘉麻市ホームページなどを活用して、活動のPRを行いました。また、学校や地域の意見交換に補導委員を招き、補導委員としての日頃の活動について研修を行いました。 補導委員の中堅層の確保については、具体的な協議はしていません。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	少年相談センターが行う事業については、子どもたちを地域全体で見守るために必要性は高いと思います。補導委員を始めとする地域の方々とともに、子どもが安心して成長できる地域づくりを行います。 効率性については、具体的に補導委員と学校を始めとする関係団体との関係づくりが不十分だったため、連携できなかったところに課題が残りました。				
今後の方向性	補導委員だけではなく、子どもの健全育成に関わる全ての関係団体が連携して、子どもを見守る地域づくりを行います。				
H26年度の課題	事業単位で、補導委員とその他の関係団体が共に取り組める機会を作る必要があります。				
『評価委員の意見』 ・補導員の高齢化が進んでいるため、中堅層が必要だと思います。 ・女性を活用したウォーキングパトロール等を検討して下さい。 ・必要な事業だと思えます。少年相談センターの活動を広く周知すべきだと思えます。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備

事業名 (予算・決算)	[38] 社会教育関係団体等育成事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： 40千円 決算： 0千円)				
目的	社会教育関係団体等の育成とその活動の充実に努めるため、各社会教育関係団体等の自立支援及び人材（指導者）の育成を行います。				
事業内容	行政協力を目的に設立された社会教育関係団体をはじめ、各種の関係団体が自主的な会の運営や事業展開が図れるよう指導助言等支援を行っています。また、社会教育関係団体と連携し、お互いが役割分担を行うなど効率的に事業を展開することができました。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 社会教育関係団体を始めとする地域団体間の連携は、まだまだ不十分であり、互いの活動の負担軽減に繋がるような連携が、より一層望まれます。</p> <p>【課題等への取り組み】 社会教育関係団体を始めとする地域団体がお互いに助け合えるよう、嘉麻市青少年育成住民会議を中心に支援しました。また、学社連携融合事業の一環として、家庭や学校との意見交換ができる場を設定し、地域の団体と家庭、学校が共に取り組み、互いが連携し助け合いを行っています。共に、団体の負担軽減に繋がるよう取り組みました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市の地域づくり、教育力向上のためには、社会教育関係団体を始めとする地域の力が必要です。その活動が自主的かつ効率的に運営ができるよう支援を行いました。 継続的な支援のためには、行政のみならず、母体となる団体による支援が必要であると思います。その母体となる団体と連携し、地域全体が効率的かつ継続的に活動できるよう取り組む必要があります。				
今後の方向性	様々な地域の団体で構成されている青少年育成住民会議と連携し、地域の団体が効果的に自主運営できるよう、支援を行っていきます。				
H26年度の課題	社会教育関係団体を始めとする地域団体間の連携は、まだまだ不十分であり、互いの活動の負担軽減に繋がるような連携が、より一層望まれます。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備

事業名 (予算・決算)	[39] 社会教育関係団体活性化補助事業(生涯学習課:社会教育係) (予算: 5,431千円 決算: 5,426千円)				
目的	市民が自主的に活動でき、生涯学習の推進や住民主体の地域づくりの促進に努めます。				
事業内容	団体の申請に基づき、稲築吹奏楽団、市青少年育成住民会議、憶良まつり短歌会、いなつき山笠実行委員会、民俗的伝統行事保存団体3団体(碓井地区:飯田地蔵祭り、西郷奉納すもう、上臼井神楽まつり)、市子ども会指導者連合会、嘉麻市文化協会、市PTA連合会の10団体に補助金を交付します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 各団体ともに団体の活動目的に沿った活動を行っているものの、全体的に連携し、嘉麻市全体の地域づくりには、十分に寄与できていないと考えます。</p> <p>【課題等への取り組み】 補助金についてのみならず今後の活動についての相談や助言を行う事が出来ました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 一部の社会教育関係団体とは、意見交換を行うことができたものの、全ての団体に対しては行うことができませんでした。 交付要綱に則った補助金交付も含め、社会教育関係団体が、自主的に運営するための支援を今後とも行っていく必要があると考えます。				
今後の方向性	各団体とヒアリングを実施し効果的な事業運営や積極的な事業の展開の助言を行っていきます。				
H26年度の課題	補助金交付要綱の目的に合致しているか再度見直すとともに、ヒアリングを基に補助金交付の時期等、団体の活動に則した事務手続きを考える必要があります。				
『評価委員の意見』 ・憶良まつり短歌会は、歴史ある団体として継承していく必要があると思います。 ・課題、団体の実態把握をお願いします。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[40] 社会教育施設整備事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： 66,429千円 決算： 64,190千円)				
目的	社会教育施設が市民の生涯学習の拠点となるよう、施設を運営（維持管理）します。				
事業内容	所管施設の管理として、なつき文化ホール・嘉穂生涯学習センター夢サイトかほ・上山田住民ホール・山田市民センター・下山田小学校白馬ホール・山田生涯学習館の運営、維持管理を行います。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 より多くの市民の方々に施設のことを知っていただき、利用いただけるよう、施設における事業の実施が必要です。</p> <p>【課題等への取り組み】 子ども会事業、通学合宿事業、青少年健全育成事業等の教育委員会関連事業を社会教育施設で開催し、生涯学習における社会教育施設の利便性についてPRしました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域の方々が生涯学習に取り組めるよう、適切な施設管理が必要です。しかし、施設の老朽化のため、施設運営以外に、修繕等の突発的な支出があり、効果的・効率的な施設管理が難しい状況です。				
今後の方向性	施設利用者が快適に利用できるよう整備を図るとともに、学校や地域と連携し、より多くの市民の方が利用できるよう周知徹底を図ります。				
H26年度の課題	生涯学習の拠点として、社会教育施設の利用を呼びかけるとともに、修繕等を適切に実施し、効果的な維持管理に取り組むことが必要です。				
『評価委員の意見』 ・社会教育施設の利用を呼びかけ、生涯学習の推進を希望します。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

<p>事業名 (予算・決算)</p>	<p>[41] ボランティア人材バンク事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： 29 千円 決算： 4 千円)</p>				
<p>目的</p>	<p>知識、技能、資格等を有する人に人材バンクに登録してもらい、生涯学習活動支援や地域づくりに貢献いただきます。</p>				
<p>事業内容</p>	<p>仕事や趣味などを通じて身につけた知識・技能・資格等を有する人に名簿登録していただき、学校や地域のあらゆる活動場面で、その培った経験、技術等を活かし地域に還元する「知の循環型社会」の構築を目的としています。なお、社会教育係に配置されている地域活動指導員が人材の発掘、ボランティア活用依頼先とのコーディネートを行います。 また、25年度は生涯学習課事業等でも活発に活用し、より多くの方々が活躍できるよう取り組みました。 登録者数 423名 159団体 派遣者数 568名 151回 対象者数 19,693名 (人材バンク事業で係わった人数)</p>				
<p>H25年度の課題と取り組み</p>	<p>【課題等】 学校や地域への派遣がまだまだ地域により差異があり、より積極的な周知活動が必要であると思われます。 【課題等への取り組み】 学校が利用しやすいよう、各学年に応じた活用方法や特別な活動をした学校の事例などを入れた人材バンク通信を配布し、学校の利用促進に努めました。</p>				
<p>事務局 自己評価</p>	<p>評価項目</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
	<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>			
	<p>事業の効果</p>		<p>○</p>		
	<p>事業の効率性</p>			<p>○</p>	
	<p>地域の方々の教育力向上、子どもたちと地域の方々のふれあい、子どもたちへの特別な授業の実施など、様々な効果があり、人材バンク事業の必要性は高いと思われます。 効率性につきましては、学校だけではなく、地域も含めて、人材バンク派遣者が活躍しやすいよう、受け入れられやすいよう、周知活動が必要でした。</p>				
<p>今後の方向性</p>	<p>より多くの方々が活躍し、活用できるような人材バンクにすることで、地域全体の教育力向上を目指します。</p>				
<p>H26年度の課題</p>	<p>人材バンクで活躍している方々や、利用し特別な活動をしている団体が、気持ちよく活動できるよう、周知活動や関係づくりが必要です。</p>				
<p>『評価委員の意見』 ・ボランティアコーディネーターの育成と人材の発掘に向けた取り組みが必要だと考えます。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>		<p>B</p>	
		<p>(前回)</p>		<p>(A)</p>	

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[42] 生涯学習推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： 33,356千円 決算： 32,505千円)				
目的	職員ならびに地域活動指導員の資質向上や市民ニーズを活かし、生涯学習の推進を図ります。				
事業内容	社会教育委員会議及び課内会議等の開催。職員、地域活動指導員の研修会や社会教育主事の養成など関係職員の資質向上に努めます。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 職員数適正化計画により、各課の職員数が削減される中、社会教育に精通した人材の育成を行うことで、嘉麻市の社会教育の向上を目指します。</p> <p>【課題等への取り組み】 生涯学習に関する研修（社会教育主事講習、管内社会教育関係職員研修等）への積極参加を促し資質向上に努めました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 社会教育関係職員の資質の向上に関する研修会等は計画どおりに実施しました。研修会には複数回参加し、他自治体で行われている事業等参考にして、より良い嘉麻市の社会教育事業に寄与しています。				
今後の方向性	継続して関係職員の資質の向上に努め、教育アクションプランに連動した事業展開を行っていきます。				
H26年度の課題	職員数適正化計画により、各課の職員数が削減される中、社会教育に精通した人材の育成を行うことで、嘉麻市の社会教育の向上を目指します。				
『評価委員の意見』 ・職員減の中、地域活動指導員等社会教育の人材の育成を期待します。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[43] 青少年体験活動推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：1,199千円 決算：942千円)				
目的	様々な子どもたちの体験活動を通して、生きる力や表現力の向上、また基本的な生活習慣の確立を目指します。				
事業内容	子どもの基本的な生活習慣の確立を目指し、実行委員会と連携実施している『通学合宿事業』、小学生が題材に沿ってエッセイを書く『わたしのエッセイ事業』、次世代のリーダーの育成を図る『ジュニアリーダー研修会』など、子どもの体験活動を実施しました。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 行政が主体的に事業計画を立てるのではなく、子どもたちに必要な体験活動を家庭、学校、地域と共に考え、共に実施していくことが必要です。</p> <p>【課題等への取り組み】 実行委員会や子ども会などと企画や運営で連携しました。その中で、ボランティアを募り、より多くの方々とともに、子どもたちのために取り組むことができました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>子どもたちの生きる力などの習得のためには、様々な体験をさせることが必要であります。また、行政が主体的に取り組むのではなく、地域の方々も関わっていただけることで、子どもたちへの効果は高いと思います。</p> <p>また、社会教育係だけではなく、公民館等とも連携することで、より効果的な事業展開ができるものと思われまます。</p>				
今後の方向性	行政だけではなく、家庭、学校、地域と連携し、子どもたちに必要な体験活動について協議していきます。				
H26年度の課題	社会教育係だけではなく、生涯学習課で連携し、子どもの体験事業を実施していく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・地域全体の連携による体験活動が必要であると思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[44] 公民館・分館等の連携強化推進事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：30,363千円 決算：27,360千円)				
目的	各地区公民館の利用者が安心して気持ちよく学習等が行われるよう、また、地域の拠点として機能するよう、施設の維持管理を行います。				
事業内容	分館及び自治公民館の情報共有と協同を図るとともに、将来の嘉麻市公民館像など意見交換等討論する場を確保しながら、共通理解を深め、地域間の交流が活発に行われることで、地域間の差異の改善に努めます。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 経年劣化により補修等必要な施設について、優先的に改修工事等を行いつつ安心して利用できるよう改修計画を策定するとともに、公民館組織体系の見直しと活動等の支援を行いながら、地域の活性化を図る必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 稲築地区公民館、下山田分館、平第二公民館、緑ヶ丘公民館、平山公民館等の修繕や改修工事を行うとともに、情報の共有や協同を図るための意見交換等討論する場として研修会を開催しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域のコミュニティの核である公民館は、行政と住民とのふれあいの場であり、様々な支援を行いながら住民の生涯学習や諸活動を支えることで、将来の人づくり、協働のまちづくりにつながり、地域活性化が図られていきます。 このことから、情報の共有と協同を図るために、研修会など意見交換等討論する場の確保に努め、地域間の差異の改善を図りつつ、地域コミュニティの構築に努めていきます。また、施設の老朽化等による改修も同時に、他の施設との調整を図りながら計画的に実施するよう努めていきます。				
今後の方向性	公民館は生涯学習、地域コミュニティの拠点としての機能・役割があることから、組織強化を図るとともに、定期的な会議の開催と公民館事業の周知徹底に努めながら、地域間の差異の改善を図り、地域コミュニティの構築に努めていきます。				
H26年度の課題	各地区の実状により情報の共有や協同が図られるまでに至っていないのが現状であり、嘉麻市に似合った基本方針を明確にし、共通認識と共通理解を深めながら、公民館組織強化を図っていく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・公民館・分館等の連携強化推進事業として地域間の差異の改善が必要です。 ・館長は高齢になっており、人材の確保が必要です。 ・地域にとって公民館は重要な役割を果たしています。組織強化も幅広い人材、世代での構成が必要です。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[45] 分館及び自治公民館等活動費補助事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：7,486千円 決算：7,328千円)				
目的	分館及び自治公民館への各種補助を行い、地域コミュニティの拠点づくりを図ります。				
事業内容	分館運営費補助金、自治公民館活動費補助金、自治公民館修繕料補助金、自治公民館付属施設設置補助金を交付し、公正公平な学習の場が提供できるよう地域コミュニティの拠点としての運営を支援します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 分館運営費・自治公民館活動費補助金算出基準の見直し等の要望があり、統一した認識の下での事業展開が行えるよう改善を図っていく必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 分館運営費・自治公民館活動補助金算出基準の見直しや公民館類似施設等維持管理等修繕料補助の範囲の見直しについては検討していましたが、改正までは至っていません。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域コミュニティの醸成は、地域住民の参画なしには考えられず、その活動の拠点づくりのために、支援は必要であると考えます。 しかし、各種補助を行い、各地域が公民館活動に取り組んでいますが、地域により活動の差異が生じているのも否めない事実であります。そのことを改善していくには地元関係者との十分な協議や理解がなくては進んでいきません。 そのためにも、市として今後の嘉麻市のあり方についての方向性も明確にした上で、地元との協議に努めていきたいと考えます。				
今後の方向性	地域間の格差是正を図るために、統一した組織体系による事業展開を行うことができるような組織の構築を提案していくように努めます。しかし、調整ができない場合は、分館、自治公民館といった現行どおりの2本立ての組織体系のまま進めていかなくてはならないと考えています。				
H26年度の課題	分館運営費・自治公民館活動費の補助金算出基準等の見直しについては、各地区の代表者による会議等で十分協議をしながら取り組んでいきます。また、統一した組織体系による事業展開を行うことができるよう、地元関係者との協議を進めていきます。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

<p>事業名 (予算・決算)</p>	<p>[46] コミュニティ活動支援 (生涯学習課: 中央公民館係) (予算: 221千円 決算: 19千円)</p>				
<p>目的</p>	<p>地域と公民館の「協働」による公民館運営の視点から関係団体や公民館を支える人たちと、公民館の新たな可能性を模索し、これからの公民館づくりを目指すネットワークの構築を図ります。</p>				
<p>事業内容</p>	<p>地域ぐるみで青少年健全育成に努めるとともに、地域のつながりを強め地域力の向上を図ることを目的に行われる地域の伝統文化や、世代間交流事業等の活動を支援します。</p>				
<p>H25年度の課題と取り組み</p>	<p>【課題等】 地域ぐるみで青少年健全育成に努めるとともに、地域の大人が子どもと関わることで互いにつながりが深まり、地域力の向上が図られることから、地域・学校・行政の協働での事業の推進や子どもと地域の世代間交流の推進に努めます。 【課題等への取り組み】 公民館は高齢者が使用するイメージが固定化していることから、その脱却に努めるとともに、青少年健全育成を推進し、次世代育成、後継者育成を図りながら組織の強化に努めました。</p>				
<p>事務局 自己評価</p>	<p>評価項目</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
	<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>
	<p>事業の効果</p>	<p></p>	<p>○</p>	<p></p>	<p></p>
	<p>事業の効率性</p>	<p></p>	<p>○</p>	<p></p>	<p></p>
	<p>【自己評価の根拠】 公民館運営には地域住民の参画なしには考えられず、現在の公民館を取り巻く状況を考慮しても、ますますその重要性が取り上げられます。また、地域コミュニティを構築していく上でも、公民館関係者及び職員の資質向上は必要不可欠であります。 ひろば事業をはじめとする青少年健全育成事業は、地域・学校・行政の協働での事業を推進していく必要があり、組織体制強化はもちろんのこと、統一した認識の下での取り組みが図られなくてはならないと考えます。</p>				
<p>今後の方向性</p>	<p>各地区で実施されている事業・活動を支援するとともに、地域ぐるみで活動等を広げていきながら、地域コミュニティの再構築をはじめ地域力の向上を図ります。</p>				
<p>H26年度の課題</p>	<p>嘉穂地区小学校の統合により、廃校となった5つの地域においては、嘉穂小学校と連携し、地域・学校・行政の協働での事業を推進することに努めるとともに、その他の地区においても、ひろば事業をはじめとする青少年健全育成を図るため、支援や対策に努めていきます。 牛隈小学校区については、大隈地区とともに事業を実施し、日頃から交流を深め、嘉穂中学校入学時に不安を感じないような環境づくりを努めます。</p>				
<p>『評価委員の意見』 ・ 世代間交流事業の実態を把握し、地域コミュニティの構築が必要です。 ・ 住民の意識調査、ニーズの把握と分析を行うことが必要です。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>	<p>B</p>		
		<p>(前回)</p>	<p>(B)</p>		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[47] 公民館事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：4,899千円 決算：3,875千円)				
目的	地域住民の生活に根ざした教育・文化に関する各種の事業・講座を行い、住民相互の交流と教養の向上、健康増進など生きがいをづくりを行います。				
事業内容	中央公民館：成人式、公民館関係者研修会等 嘉穂地区公民館：ときめき学習、古布あそび、陶芸教室、盆踊り講習会等 碓井地区公民館：盆踊り講習会、碓井地区公民館開館準備 稲築地区公民館：盆踊り講習会 山田地区公民館：山田サルビア大学、3ちゃんグラウンドゴルフ大会等				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 地域住民のニーズを把握し、課題解決に向けた学習メニューの取り組みへと見直ししながら、公民館利用者の拡大、講座内容の拡充を図ります。 【課題等への取り組み】 講座内容、講座対象者、募集方法などの確にしたチラシを作成し、公民館は高齢者が使用するとといった固定化したイメージを取り除きながら、市民への周知徹底に努めるとともに、地域活性化をはじめ、地域の架け橋となるべく役割を果たすよう取り組みました。				
事務局自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 公民館講座をはじめとする各種事業は、生涯学習の一環であり、多様な学習機会を提供することにより、個々に学ばれたことが市民参画という形で地域に還元され、地域コミュニティの活性化につながると考えています。 また、大人限定の講座にとどまらず、夏休み期間等子どもを対象にした事業を通して、世代間交流の場となり地域活性化につながるとともに、公民館利用団体との連携した講座は、団体会員の高齢者、新規会員減少に伴う組織の衰退化を避ける意味でも一つの支援策となると考えています。					
今後の方向性	地域住民のニーズを把握し、課題解決に向けた学習メニューの取り組みに応えた講座かどうか検証しながら、公民館利用者の拡大に努めます。				
H26年度の課題	各種事業や講座を通してのふれあい、生涯学習の推進（住民主体での人づくり・まちづくりの展開）を他の関係機関・部署と連携した事業の推進に努めます。文化協会各支部と連携し、講座の開設から人材育成を図るよう努めます。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算・決算)	[48] 図書館施設管理運営事業 (生涯学習課：図書館係) (予算： 91,793千円 決算： 89,108千円)				
目的	図書館を適切に管理運営することにより、読書環境の整備・充実を図り、快適かつ安心して利用する場を提供します。				
事業内容	図書館職員又は受託業者が、施設、資料、システムを管理し、地域住民に応じた資料提供サービスを行っています。 ・ 図書館施設の保守点検・清掃 ・ 図書館資料の選書、分担購入 ・ 移動図書館車の運行 ・ 図書館だよりの発行 等				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 嘉麻市の図書館に相応しい運営方法や組織体制の充実について総合的に検討を進める必要があります。また、図書司書の資質向上を図るとともに、図書館未利用者への積極的なPRに取り組みます。図書館システムの更新について、安全かつ利便性の向上を目指し、新システムの構築を行います。 【課題等への取り組み】 図書館の新システムを構築し、利用者の利便性向上や4館職員間の情報共有にも繋がりました。 また、図書館ホームページの活用を強化し、おはなし会等の各種イベント情報を随時発信するなどPRに努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 赤ちゃんからお年寄りまで、全ての嘉麻市民が利用できる図書館が身近にあることで、「地域の知の拠点」となっています。 貸出冊数及び利用者数は前年度に比べ図書館ごとに差はありますが、新たな市民の利用が増えています。				
今後の方向性	継続して図書館を適切に管理運営し、貸出冊数、登録者の増加を目指します。				
H26年度の課題	図書司書の資質向上を図り、レファレンスサービス等の利用者サービスを充実させるとともに、図書館未利用者への積極的なPRに取り組みます。				
『評価委員の意見』					
・ 図書館は交流の場であり学習の場でもあるので、施設の充実が必要であると思います。 ・ 各地区の図書館の格差是正が必要です。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算・決算)	[49] 読書活動推進事業 (生涯学習課：図書館係) (予算： 813千円 決算： 768千円)				
目的	おはなし会、読書講演会等を開催することによって、市民の読書活動を推進し、図書館利用を促進します。				
事業内容	赤ちゃんからお年寄りまで、様々な年代に対応した読書活動推進事業を実施します。 ・おはなし会（乳幼児向け、児童向け） ・ブックスタート ・古典文学講座 ・読書講演会 等				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 平成24年度に策定した、「嘉麻市子ども読書活動推進計画」に基づき、おはなし会やブックスタート等の内容を充実させ、参加者の定着化や増加を目指すとともに、図書館の利用促進を図る必要があります。 【課題等への取り組み】 絵本の読み聞かせを中心として、科学あそびや工作など子どもたちが興味を持つような事業を実施しました。美術館や子育て支援センター等他の機関との連携協力をを行い、利用促進を図りました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 読書活動は、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであることに鑑み、各種事業を実施しています。これにより読書の楽しさ、習慣づくり、必要な知識や教養の提供ができています。				
今後の方向性	ホームページやSNSを活用し、各種イベントPRの充実を図り、更なる読書活動推進事業の推進を図ります。				
H26年度の課題	おはなし会やブックスタート等の内容を充実させ、様々な読書推進事業を行い、参加者の定着化や増加を目指すとともに、図書館の利用促進を図る必要があります。				
『評価委員の意見』 ・ブックスタート事業等、他の機関と連携を行い、子育ての保健指導時にも取り組む必要があります。 ・乳幼児に絵本を与えるこの取り組みは、大変良い事業だと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算・決算)	[50] 図書館ボランティア養成事業 (生涯学習課：図書館係) (予算： 29千円 決算： 29千円)				
目的	図書ボランティアの養成、活動支援を行います。				
事業内容	図書ボランティア連絡協議会の活動支援、ボランティア養成講座の開催、ボランティアサークルによるおはなし会、学校での読み聞かせ等の活動支援を行います。 ・嘉麻市図書ボランティア連絡協議会（総会、研修会等） ・読書ボランティア養成講座、布の絵本展等				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 ボランティア養成講座の開催が、確実にボランティアの人材育成につながるような受講者に対するフォローアップの取り組みが必要です。 【課題等への取り組み】 わらべうた講座を開催し、図書ボランティアのスキルアップを行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 読書推進を図る上で、ボランティアの協力は必要不可欠です。ボランティアの協力を得ることによって、利用者の裾野を広げることができます。 ボランティアの協力、活動を通じて世代間の交流もできており、充実した事業が実施できています。				
今後の方向性	市民の継続的な読書活動推進のため、事業を継続していきます。				
H26年度の課題	新規のボランティア開拓を図り、既存ボランティアの資質向上を目指します。 (読書ボランティア養成講座、ブックスタートだっこボランティア講座開催)				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(1) スポーツ推進計画の策定

事業名 (予算・決算)	[51] スポーツ推進計画の策定 (生涯学習課：スポーツ振興係) (予算：5,240千円 決算：5,240千円)				
目的	本市のスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために、スポーツの推進に関する基本的な計画を策定します。				
事業内容	スポーツ推進審議会に諮問し、平成24・25年度の2カ年で、計画の策定を行います。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 乳幼児から高齢者までの施策を構築することです。</p> <p>【課題等への取り組み】 スポーツ推進審議会において、各種調査等の分析や議論を経てスポーツ推進計画の策定に取り組みました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 嘉麻市のスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画の策定であり、スポーツ政策の具体的な方向性を示す重要な指針となることから、必要性・効果・効率性それぞれ高いと考えます。 審議会において、2ヶ年にわたり活発な議論がなされ、乳幼児から高齢者に至るまでのスポーツ推進計画書を策定しました。				
今後の方向性	平成26年3月31日にスポーツ推進計画を策定したため、この事業は、完了しました。				
H26年度の課題	/				
『評価委員の意見』 ・スポーツ推進計画を住民に広く周知する必要があると思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(2) 子どもの体力・運動能力向上の推進

事業名 (予算・決算)	[52] プロジェクトK (旧: ゴールデンエイジプロジェクト) (生涯学習課: スポーツ振興係) (予算: 3,614千円 決算: 3,005千円)				
目的	徳島大学大学院 荒木秀夫教授のコーディネーション理論に基づいた運動指導で、豊かな感性、知性、運動をもった子どもたちを育みます。				
事業内容	嘉麻市モデルといわれる0歳児から高校生までの脳と身体の発育・発達に応じたプログラムを構築し広く普及させます。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 私立保育園、幼稚園及び小学校へ繋げていくことが課題です。</p> <p>【課題等への取り組み】 乳幼児から高齢者まで、すべての市民を対象にしたスポーツ推進計画を策定しました。 NPO法人と連携した運動指導、小学校への運動指導、研修会の開催等に取り組みました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 荒木先生によるコーディネーション運動乳幼児編(プログラムA1)を作成し、コーディネーション運動を取り入れている保育園、幼稚園に配布し、嘉麻市ケーブルテレビで放映しました。 NPO法人と協働による公立保育(園)所でのコーディネーション運動指導(プログラムA2)、大隈、牛隈小学校(プログラムB1、B2)への運動指導を行ないました。様々な幼児、児童の変容が見られたとの報告があがってきています。				
今後の方向性	関係課と連携し各カテゴリーでのコーディネーショントレーニングの普及を行います。				
H26年度の課題	コーディネーショントレーニングが保育園(所)、幼稚園、さらに小学校へと広がりを見せているなか、それに対応する指導者の発掘・養成が急務となります。				
『評価委員の意見』 ・発達障害の子どもさんに対する教育と発達障害の認識に対する啓発活動を行って下さい。 ・必要な事業ですので、嘉麻市内の全小学校に普及して下さい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(2) 子どもの体力・運動能力向上の推進

事業名 (予算・決算)	[53] コーチングスキルアップ (生涯学習課：スポーツ振興係) (予算：1,074千円 決算：928千円)				
目的	スポーツ指導者の指導力向上を図ります。				
事業内容	大学教授を講師に迎えてスポーツ指導者、スポーツ推進委員、保育所、教員を対象とした研修会の実施。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 指導者講習会はもとより、保護者への啓発が課題です。</p> <p>【課題等への取り組み】 市PTA連合会、公立保育所と連携して、徳島大学大学院 荒木秀夫教授を講師に迎え研修を行いました。また、すべての公立保育所や小学校にスポーツ振興係職員を派遣し研修を行いました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 脳や身体の発達に応じた運動を指導することが重要であり、そのためには、科学的知識及び実践法の普及や習得をすることが重要であると考え、スポーツ指導者、保育士等への研修に加え、25年度は市PTA連合会と連携し保護者への啓発も行いました。				
今後の方向性	科学的に証明された、子どもの発育発達段階に応じた運動の重要性と危険性を広く指導者、保護者に啓発していきます。				
H26年度の課題	保育園(所)、幼稚園13園でコーディネーショントレーニングが導入され、就学前児童の8割が運動指導を受けることとなります。さらに、小学校、高齢者へと広がりを見せており、指導者育成が急務となっています。				
『評価委員の意見』 ・ 育成者用のコーディネーションプログラムの整備が必要です。 ・ 外部コーチとクラブ担当教員との整合性についての配慮が必要です。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(3) スポーツ活動の活性化

事業名 (予算・決算)	[54] スポーツコミュニティ創造事業 (生涯学習課：スポーツ振興係) (予算：96千円 決算：0千円)				
目的	市民が身近な場所で運動・スポーツに親しむことができる機会を提供し、スポーツ人口の増加、健康増進を図るとともにスポーツによるコミュニティを創造します。				
事業内容	運動・スポーツ教室の開催及びサークル設立に向けた支援を行うとともに、市民の誰もが身近で活動できる総合型地域スポーツクラブの育成及び設立の支援を行います。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 スポーツによるコミュニティづくり及び公立保育所での運動指導を行っている NPO 法人と連携し、総合型地域スポーツクラブの設立に向けて準備作業を進める必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 市民の自己の運動レベルに応じた教室の提供と新たに稲築地区で開催しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 市民の誰もが身近な場所で運動に親しむことが出来る環境を提供していくことは、重要であり必要性は高いと考えます。また、教室の内容等の変更を行うことにより、参加者の増加がみられ、効果も高いと思います。 有酸素運動とニュースポーツ等を組み合わせた健康運動教室の開催、各種健康運動教室を開催しました。また、総合型スポーツクラブの設立に向けての支援を行いました。</p>				
今後の方向性	参加者とコミュニケーションをとりながら市民ニーズの把握と創出を行い、関係する各課と連携した取り組みを行なっていきます。				
H26年度の課題	市民が気軽に参加できる身近な場所での教室開催が課題です。				
『評価委員の意見』 ・総合型スポーツクラブの設立に向けての支援は今後も継続が必要です。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(3) スポーツ活動の活性化

事業名 (予算・決算)	[55] 体育施設管理運営事業 (生涯学習課：スポーツ振興係) (予算：144,153千円 決算：141,882千円)				
目的	自主運動の場を提供し、市民の健康増進を図ることを目的としています。				
事業内容	社会体育施設の管理・運営・整備を行います。(28施設)				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 施設の利用状況を勘案しながら、リノベーションという考え方を取り入れた施設の管理運営を行うことや利用者から不満がある現行の施設予約についての改善が課題です。</p> <p>【課題等への取り組み】 嘉穂総合体育館において、授乳室の改修及び多目的トイレの改修等利用者の利便性の向上に努めました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 体育施設の管理・運営を行うことは、市民の健康増進、スポーツ活動の拠点施設として、そして、スポーツによる多くの交流人口を生み出すものとして必要性の高い事業です。</p> <p>課題である施設の予約については、予約システムの導入をここ数年検討してきましたが、導入費用が高額であることから困難な状況です。利便性の向上に向けて、障がい者、乳幼児を持つ保護者の利用が年々増加の傾向にあることから、授乳室、多目的トイレの改修を行いました。</p>				
今後の方向性	市民が身近に運動・スポーツを行える場所や機会を提供するために、既存施設の改修、効率的な運営方法の検討やスポーツ施設情報の発信を行っていきます。				
H26年度の課題	統廃合対象施設、休止施設、老朽化した施設等の方向性を決定するために、判断材料となる修繕費用等の資料整理を行うことが課題です。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(3) スポーツ活動の活性化

事業名 (予算・決算)	[56] スポーツ大会支援事業 (生涯学習課：スポーツ振興係) (予算：7,654千円 決算：6,690千円)				
目的	各種大会、団体を補助することでスポーツの振興を図ることを目的としています。				
事業内容	各種大会への補助金の支出と運営の補助を行うとともに、自主運営を行う体育協会への補助金の支出を行っています。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 多くの市民が気軽に参加できるような大会やスポーツ人口の増加を図る教室やイベントを補助団体と協議していく必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 団体との協議を継続していきます。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 市外、県外から多くの参加者が訪れる各種大会を支援することは、交流人口を生み出す効果があり、必要性は高いと考えられます。 体育協会への補助金の支出については、加盟競技団体の育成、スポーツの市民への普及、市民総合体育大会の運営という観点から、事務の効率性は、高く必要な事業と考えます。				
今後の方向性	多くの市民の参加できるような大会運営を補助団体と継続して検討します。 また、参加者が少ない大会等については、問題点を解析し、大会のあり方について、主催者と協議を進めます。				
H26年度の課題	多くの市民が気軽に参加できるような大会、スポーツ人口の増加を図る教室やイベントを補助団体と協議していく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(4) スポーツ大会の誘致

事業名 (予算・決算)	[57] スポーツ大会誘致事業 (生涯学習課：スポーツ振興係) (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目的	九州大会、県大会等を誘致し交流人口を創出することで、地域に経済効果と住民に誇りをもたらします。				
事業内容	各種団体等へはたらきかけ、県大会レベル以上の大会を嘉麻市で開催します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 大会等を招致し多くの交流人口を創出したときの課題は、飲食の不便さがあります。飲食の提供についての協議を関係各課及び団体と協議を行う必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 市内の仕出し屋及び弁当屋に問合せを行い、配達できる業者のリストを作成しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 スポーツイベントの開催や大会などの誘致行うことによって、市民に「みる」スポーツの楽しさを提供し、スポーツへの関心、理解を深めスポーツ参加の契機ともなる役割を果たします。また、スポーツ施設を活用し、市内の宿泊施設と連携したスポーツ合宿を誘致することで、地域に経済波及効果をもたらし、スポーツを通じた地域づくり、地域の活性化が図られます。第1回フットサル九州リーグ (開幕戦を含め3戦)、フットサル大学医学部大会、九州インカレ、バドミントン合宿等を誘致しました。</p>				
今後の方向性	既存スポーツ施設を活用し、大会、合宿等を誘致し多くの交流人口の創出を図ります。				
H26年度の課題	地元宿泊施設及び飲食店との連携した取り組みが必要です。				
『評価委員の意見』 ・スポーツで地域を盛り上げるのは非常に大切だと思うが、宿泊施設等の問題は今後の課題だと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(1) 学校教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算・決算)	[58] 人権・同和教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目的	福岡県人権教育・啓発基本指針及び嘉麻市人権教育・啓発基本指針に基づき、学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう指導していきます。				
事業内容	学校における人権教育の時間の充実を図ります。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 人権課題の解決に向け、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な行動をとることができるよう、人権教育の推進を図っていく必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 人権意識等を育み、人権課題の解決に向けた、実践力へとつなげていくために、人権に関する知的理解に加え、人権感覚を養うことが重要です。人権感覚は、言葉だけで教えることでなく、児童生徒が自ら主体的に、しかも学級の他の児童生徒たちとともに学習活動に参加し、協力的に活動し、体験することをおすすめ学習方法を推進していきます。また、家庭・地域・関係機関の人々をはじめ多くの人々と連携をとり人権教育の推進を図っていきます。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 道徳の時間の充実をはじめとし、あらゆる教育活動を通じて、人権感覚の定着の取り組みを行いました。その結果、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることについては、理解できるようになりました。様々な状況下で、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な行動が見えはじめています。				
今後の方向性	学校でも、人権感覚を身に付けさせる取り組みを推進していきますが、単なる知識に止まらず、より児童生徒に主体的な学習を可能にするために家庭・地域・関係機関の人々をはじめ多くの人々と連携をとり、児童生徒の発達の段階に応じた系統的な取り組みを推進していきます。				
H26年度の課題	人権課題の解決に向け、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な行動をとることができるよう、人権教育の推進を図っていく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算・決算)	[59] 人権学習推進事業(生涯学習課:人権・同和教育係) (予算: 2,605千円 決算: 2,556千円)				
目的	同和問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、HIV感染者など、人権尊重の社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、社会教育における人権・同和教育を一層推進するために、市内の各種団体等の協力を得ながら、行政区単位地域研修会、団体・サークル等研修会、企業内人権・同和问题研修会を実施し、また、関係行政機関及び地域活動指導員(人権・同和教育指導員)との連携を行い、社会教育における人権に関する学習を推進します。				
事業内容	嘉麻市の人権・同和教育の推進を図るため、市内各行政区をはじめ、団体・サークル等、企業や市職員の人権・同和问题研修会の開催を推進し、人権・同和问题に関する意識の向上を図ります。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 関係各課との連携により、地域・企業・各団体に対し、人権研修会の開催をあらゆる機会を活用し周知を図ります。</p> <p>【課題等への取り組み】 誘致企業や各地区行政区長会及び団体・サークル等に、資料を持参して直接依頼をし、回れない所は文書等の送付により、人権研修会の開催を依頼しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	<p>【自己評価の根拠】 人権教育・啓発の推進には、行政が取り組む人権施策の普及に地域住民の理解協力を得ることが大切です。そのため、市民一人ひとりが、人権問題について正しい認識と理解を深め、「差別をしない」から「差別をさせない」との意識が日常生活の行動等に確実に根付くよう啓発を推進し、住民の人権意識が向上するよう努めています。また、地域・企業・団体・サークル等個別の研修会を数多く開催し、住民の人権意識の向上を図りました。平成25年度は、8行政区で研修会を実施しました。</p>				
今後の方向性	地域・企業・各団体における人権が守られ、お互いが尊重しあい、差別のない社会の構築に向けた取り組みを推進し、同和問題をはじめ、あらゆる人権問題に係る啓発事業の一環として実施し、市民の人権意識高揚を図りたいと思います。				
H26年度の課題	平成26年度からは、嘉麻市独自の企業研修を行う必要があるため、商工会議所等の関係機関や関係各課と連携しながら、研修内容の充実を図る必要があります。				
	『評価委員の意見』 ・市民等の意識調査を行う必要があるのではないかと思います。 ・企業研修におおいに期待します。				
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算・決算)	[60] 解放子ども会育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算： 8, 290千円 決算： 7, 185千円)				
目的	解放子ども会は、仲間づくりや基礎学力を培いながら、地域と家庭との連携を図り、嘉穂解放子ども会の再開を目指します。合宿研修会では、小中学生が寝食を共にし、学習や活動を通して人権学習の高揚を図り、社会見学では、子どもや指導者等が歴史や文化を学び体験から見識を深めます。フィールドワークでは、差別の現実を認識し、人権・平和の大切さを学びます。解放子ども会祭りや実践報告会は、1年間の実践発表の場とします。				
事業内容	稲築・碓井地区において、解放子ども会を開催し人権・同和問題についての学習を行っています。 (1) 解放子ども会の開催 (開講式を含む) (2) 解放子ども会合宿研修会の開催 (3) 解放子ども会社会見学会の開催 (4) 解放子ども会フィールドワークの開催 (5) 解放子ども会祭り (碓井地区)・実践報告会 (稲築地区) の開催				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 稲築地区では解放子ども会のさらなる育成を、嘉穂地区においては、現状を踏まえながら小学校の統合を視野に、解放子ども会の再開に臨みます。【課題等への取り組み】 稲築地区、碓井地区で行っていた解放子ども会を、嘉麻市解放子ども会に統一し、嘉麻市全域から解放子ども会への参加を呼びかけました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 稲築地区、碓井地区で行っていた解放子ども会を、嘉麻市解放子ども会に統一し、フィールドワーク等の事業を嘉麻市解放子ども会として取り組みました。 合宿研修会の実施は、小・中学生が寝食、学習、野外体験活動を共にすることで、連携や交流を深め自主性を深めるなど、学び得ることは多く事業効果も高いと思われます。また、社会見学やフィールドワークを行い、他地域の文化や歴史にふれ、差別の現状、人権・平和の大切さを学ぶ場としています。解放子ども会祭りや実践報告会では、1年間の総括を行いながらふり返りの場とし、次年度の学習につないでいます。				
今後の方向性	稲築地区、碓井地区で行っていた解放子ども会を、嘉麻市解放子ども会に統一し、嘉麻市全域から解放子ども会への参加を呼びかけます。				
H26年度の課題	解放子ども会に参加する児童生徒の数が減少しており、参加者数を増やすための取り組みが課題となっています。				
『評価委員の意見』 ・教育現場との連携の取り組みが必要です。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算・決算)	[61] 解放学級育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算： 1,653千円 決算： 1,171千円)				
目的	同和問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、HIV感染者など、人権尊重の社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、あらゆる差別をなくすことができるよう人権尊重の社会の実現を目指して、自らの人権意識を高めます。また、地域住民との交流や地域活動指導員(人権・同和教育指導員)等との連携を深め、人権・同和問題についての相互理解と連携意識の高揚を図ります。				
事業内容	稲築・碓井・嘉穂地区において、解放学級・識字学級を開催し、人権・同和問題についての学習を行っています。 (1) 解放学級開講式の開催 (2) 解放学級・識字学級の開催 (3) 解放学級合同研修会の開催 (4) 解放学級実践報告会・研修会の開催				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 解放学級生の高齢化と参加者数減少 解放学級・識字学級の目的の明確化 【課題等への取り組み】 高齢化等により、学級生の減少が進んでいるため、若年層参加への呼びかけを行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 解放学級・識字学級を開催することで、学級生一人ひとりが、人権問題について更なる正しい認識と理解を、より深めることが出来ました。さらに、地域住民・団体との交流会を開催することで、お互いの理解と心のつながりを深め、思いやりの心等を養うことができ事業効果も高いと思われます。若年層への参加を呼びかけましたが、参加者が少ない状況であり、今後も呼びかけを続けていきます。				
今後の方向性	解放学級は現状維持をしながら、若い世代の取込みも含め今後も継続して行います。				
H26年度の課題	識字学級の参加者はニューカマー(外国人)が多くなっており、今後の識字学級の運営について、検討が必要です。				
『評価委員の意見』 ・十分なる啓発が必要です。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	[62] 文化芸術活動推進事業 (生涯学習課：美術館係) (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目的	美術団体の主体的な活動の支援や、文化芸術活動の推進を図るとともに、創作展示活動の場の提供及び子どもたちが感性を磨き、考える力、表現力などを学ぶ芸術鑑賞機会の充実を図ります。				
事業内容	美術協会など主体的な活動を行う団体と連携協力を図り、市の文化団体などの展示活動への協力、支援を行います。 また、サークル等のアトリエでの創作活動を支援します。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 学校が鑑賞での活用を計画できるように、企画展等の案内を行い周知を図る必要があります。</p> <p>【課題等への取り組み】 展示室5については、嘉麻市美術協会など8団体による展覧会などでの活用がありました。市が共催している展覧会については、展示方法等についてアドバイスを行いました。 また、7団体が継続してアトリエでの学習活動を行っています。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 市美術協会、市文化協会など関係団体や教育委員会分室と連携して展示活動への協力、支援を行いました。 アトリエは、年間を通して学びの場として活用が図られています。 また、小学校の見学による来館など、子どもたちに芸術鑑賞の機会を提供することができました。</p>				
今後の方向性	今後も主体的、自主的に文化芸術活動を行うサークルや団体を支援し、子どもたちの芸術鑑賞の機会の充実を図ります。				
H26年度の課題	学校が鑑賞での活用を計画できるように、引き続き企画展等の案内を行い周知を図るとともに、来館が難しい学校については、出張美術館などで鑑賞の機会を提供する必要があります。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	[63] 美術館運営管理事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：35,840千円 決算：34,469千円)				
目的	市民が文化芸術活動、芸術鑑賞及び憩いの場として、美術館及び公園を快適かつ安心して利用できるよう施設等の運営管理を行います。				
事業内容	美術館及び公園の維持管理を図るとともに、適切な環境の中で収蔵、展示作品の保存管理を行います。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 経年劣化に伴う修繕など施設の維持管理に努めるとともに、利用者が快適に利用できる環境の整備を図ります。</p> <p>【課題等への取り組み】 汚損が著しい閲覧室のカーテン取替え、壁のクロス及び破れたソファの張替えを行いました。 洋式トイレに暖房便座を設置し、冬季の冷たさを解消しました。また、DVDプレイヤーを購入し展示の際に活用しました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 閲覧室のカーテン取替え、壁のクロス及びソファの張替えにより、室内が明るくなったと利用者から好評で、文化祭の展示等にも活用されました。 洋式トイレの暖房便座設置により冬季の冷たさを解消し、利用者の利便性を図ることができました。また、DVDプレイヤーの購入により、展示の際に映像資料の提供ができ、より充実した展覧会となりました。 美術館及び事業の周知につきましては、美術館専用ホームページによる情報発信に加え、広く周知を図るため美術館リーフレットを作成しました。				
今後の方向性	美術館及び公園を快適かつ安心して利用できるよう、継続して施設等の維持管理に努めるとともに、利用者の利便性を図ります。				
H26年度の課題	経年劣化による建物及び設備の修理等が予想されます。また、美術館の展示照明切替えについて検討する必要があります。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	[64] 企画展事業 (生涯学習課：美術館係) (予算： 5,334千円 決算： 4,971千円)				
目的	著名な作家や郷土ゆかりの作家の作品展示及び優れた芸術作品の鑑賞機会を提供することにより、心豊かな感性を育み文化の向上を図ります。				
事業内容	館蔵品展、郷土作家展、夏季企画展など7展を開催しました。 「春のコレクション展 2013」 4月1日～4月7日(6日間) 「第11回嘉飯山の画家たち展」 6月22日～7月28日(32日間) 「オビエナレ2013 ぼくらの嘉麻の森」 8月6日～8月25日(18日間) 「林忠彦写真展」 8月31日～10月20日(44日間) 「第69回福岡県美術展覧会筑豊展」 11月6日～11月24日(17日間) 「冬のコレクション展『織田家の人々』」 12月12日～2月2日(39日間) 「春のコレクション展 2014」 3月6日～3月31日(22日間)				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 県展の美術館開催にあたり、各部門の筑豊地区会員に協力要請を行い、県展筑豊巡回展実行委員会を立ち上げる必要があります。 【課題等への取り組み】 県美術協会による県展筑豊巡回展実行委員会を立ち上げ、展示などについて協議し、全部門美術館を会場として開催しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 嘉飯山の画家たち展では、関連事業として、出品作家による出前授業や共同作品制作などを行い、地域の美術家と触れあえる機会を提供できました。 ぼくらの嘉麻の森は、美術教育普及事業で子どもたちが森の木琴の周りに段ボールで森を作り、作品として展示しました。森の木琴の演奏やDVDでの映像資料提供も行い、多くの来館者に嘉麻市の魅力を伝えることができました。 林忠彦写真展は、日本の作家の作品を写真と文学の視点から展示しました。関連事業では、ピンホールカメラのワークショップ、筑豊で活動する若手写真家たちの写真展や撮影会、筑豊女子カメラ写真展を開催、市内図書館では同写真展文士に関する書籍コーナーが開設されました。美術館の内外において堅苦しいイメージだけではない複数層に向けた内容構成で事業展開したことにより、多様な世代の来場者となり来館者及び関連事業参加者にも好評でした。 県展は、日本画、洋画、書、写真、デザインの県美術協会員の協議により専門性の高い展示となりました。また、美術館を会場としたことから鑑賞しやすい環境での展示と利用者からの問い合わせへの柔軟な対応が可能となりました。				
今後の方向性	来年度から3年間記念事業が続きますが、周年事業のみではなく親子で楽しめる絵本原画展等の事業の実施も必要であると考えています。				
H26年度の課題	嘉飯山の画家たち展は、美術館運営協議会において出品依頼作家の選考に透明性を持たせるよう意見をいただいております、選考方法等の検討が必要です。				
『評価委員の意見』 ・企画展等は本当に工夫をされていて良いと思います。 ・今後も期待しています。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	[65] 美術館ボランティア事業 (生涯学習課：美術館係) (予算： 30千円 決算： 8千円)				
目的	子どもたちの美術活動の充実と、美術館の活動に関わる人材の育成を図ります。				
事業内容	ボランティア会議やジュニア美術学科等の打合せ及び事前学習。 ジュニア美術学科における子どもたちへのサポート。				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 新たなボランティアの募集を行い、子どもたちへの学習支援を通じて資質の向上を図ります。</p> <p>【課題等への取り組み】 市の広報及びホームページでボランティアの募集を行いました。 ボランティア会議や講座の事前学習においてスキルアップを図り、ジュニア美術学科で子どもたちの学習支援を行いました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ボランティアのサポートにより、子どもたちが個々のペースで充実した学習を行えるようになりました。 また、ボランティア間においてもコミュニケーションが図られ、美術館での活動の中においてお互いに意識を高めあうことができました。				
今後の方向性	今後も継続して、子どもたちへの学習支援の充実と、美術館の活動に関わる人材の育成を図ります。				
H26年度の課題	継続して活動するボランティアに加え、新たなボランティアの募集を行い、子どもたちへの学習支援を通じて資質の向上を図ります。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

○重要課題7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	[66] 美術教育普及事業 (生涯学習課：美術館係) (予算： 794千円 決算： 686千円)				
目的	楽しみながら創作活動を行う機会や場の提供を行い、芸術への興味を深め豊かな感性と表現力を育むことにより、美術教育の充実を図ります。				
事業内容	<p>7講座を開設しました。(大人：3講座、子ども：4講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真講座(前期・後期) 16回 18歳以上 受講者29名 ・大人の体験講座 5回 高校生以上 受講者27名 ・美術講座 1回 年齢制限なし 受講者10名 ・ジュニア美術学科 12回 小学校1・2年生 受講者38名 ・オダビアートクラブ 6回 小学生 受講者70名 ・わくわくアトリエクラブ 2回 4～8歳までの子どもとその保護者 受講者15名 ・夏休み子どもワークショップ 2回 小学生 受講者18名 				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】 より充実した内容となるよう、講座の募集や開設方法について検討します。</p> <p>【課題等への取り組み】 オダビアートクラブでは、近畿大学産業理工学部と連携して、ワークショップ「ようこそ、ぼくらのランチハウス」を実施しました。大学との連携により規模の大きなワークショップとなりました。</p>				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 オダビアートクラブでは、今年度初めて近畿大学産業理工学部と連携して、美術館に隣接する公園にダンボールで家を制作するワークショップを実施しました。大学生のサポートにより充実した規模の大きなワークショップとなりました。また、完成した家には家族を招き昼食を取るなど、家族の触れ合いの場を提供できました。 夏休み子どもワークショップでは、「森の木琴」の音色からイメージした動物や風景をダンボールで造形し、嘉麻市の森を再現しました。制作した作品は「オダビエンナーレ2013 ぼくらの嘉麻の森」として企画展を開催しました。親子や帰省中の親戚との参加で楽しい時間となりました。 また、その他の講座においても、専門家の指導でさまざまな芸術体験を行うことにより、創作活動の楽しさを実感する場を提供することができました。				
今後の方向性	今後も継続して、子どもから大人まで楽しく学べる美術教育の充実を図ります。				
H26年度の課題	より充実した内容となるよう、講座の開催日や運営方法について検討します。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・大変人気のある講座で今後も期待し継続をお願いします。 ・大学との連携は素晴らしい取り組みだと思います。 					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

○重要課題7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算・決算)	[67] 歴史民俗教育普及事業 (生涯学習課：文化財係) (予算： 2,892千円 決算： 2,578千円)				
目的	様々な文化財や関係資料を活用し、地域の歴史や文化への理解と関心を深めるとともに、文化財の保護継承の重要性について周知を図ります。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもたちと戦争展」(平和祈念館) 7月20日～9月1日 36日間 ・語り、伝える 戦争の話 8月3日 ・How-to 好古学 めざせ!石器マスター 3回(8月24日、9月7・14日) ・歴史講演会 11月30日 ・沖出古墳同時公開(春・秋) 4月20・21日 10月19・20日 				
H25年度の課題と取り組み	<p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整理を終えた平和祈念館収蔵資料の活用を図ります。 ・講座等の新企画を始めます。 ・小中学校での活用を促します。 <p>【課題等への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもたちと戦争」展の開催 ・体験を取り入れた講座「How-to 好古学」を実施 ・先生方への企画展の案内、学習の支援 				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもたちと戦争展」へは509名(市外302名)が訪れました。中学生以下の見学者は133名で、親子で学び合う機会を提供できました。 ・今回2回目の「語り、伝える戦争の話」では2名から貴重な戦時中の体験談を直接聞くことが出来ました。 ・How-to 好古学では、少し専門分野に踏み込み13名の申込みがありました。基礎知識を学び、実際に石器に触れ、石器作りを体験しました。 ・歴史講座として「黒田如水・長政と嘉麻・穂波」をテーマに講演会を開催。募集定員50名に対し事前申込み73名、最終参加者は96名と好評でした。 ・春と秋の沖出古墳同時公開には173名(市外110名、県外12名)が訪れ、沖出古墳の素晴らしさを広げることが出来ました。 ・市内小学校や団体等の学習支援を年間30回行いました。 				
今後の方向性	今後も大人から子どもまでの学びの場や学習支援を継続します。				
H26年度の課題	企画展など事業の周知を図るとともに学習支援に努めます。				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史資料館等のPRを大いに行い、子ども達への民族の学びの場として期待します。 ・郷土館や平和祈念館の周知を広く行う必要があります。 					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題 7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算・決算)	[68] 文化財保護事業 (生涯学習課：文化財係) (予算： 12,144千円 決算： 11,541千円)				
目的	指定文化財の維持管理及び保存修理を支援し、保護と継承を図るとともに、施設等の維持管理に努めます。また、開発事業者との事前調整、埋蔵文化財の調査、資料整理等を行います。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の維持管理および補助と施設等の維持管理を行います。 開発事業者との事前調整（調査）および埋蔵文化財等の調査を行います。 発掘調査出土品の再整理を行います。 				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 <ul style="list-style-type: none"> 沖出古墳出土品の再整理を継続します。 指定文化財説明板等の把握と板面の清掃を行い見学者に配慮します。 登録有形文化財建造物の登録手続きを進めます。 【課題等への取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> 沖出古墳出土品の再整理と関係図面等のデジタルデータ化を行いました。 指定文化財の説明板の確認を行いました。 所有者と協議し建造物の国登録有形文化財に向け資料作りが行われました。 				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 <ul style="list-style-type: none"> 沖出古墳の資料再整理と図面等をデジタルデータ化し保存ができました。 草刈や補助金交付により指定文化財の維持管理に努めることが出来ました。 開発事業者の協力により年間121件（立会調査12件、試掘調査2件を含む）の事前審査を円滑に行うことができました。 建造物の資料作りが行われ、国登録有形文化財へ向け大きく前進することができました。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の維持管理を継続するとともに、建造物の国登録有形文化財にむけ、県の指導を受けながら事務処理を行います。 埋蔵文化財資料の再整理を継続して行います。 開発業者へ周知を図りながら円滑に事前審査を進め、文化財保護に努めます。 				
H26年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 旧千手小学校内にある「千手小学校のケヤキ」（市天然記念物）の剪定を行います。 「次郎太郎古墳」出土品の再整理を行います。 				
『評価委員の意見』					
・デジタル化することにより、よりよい保存が可能になると思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

○重要課題7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算・決算)	【69】 歴史民俗資料展示・保管施設の管理活用事業 (生涯学習課：文化財係) (予算： 3,843千円 決算： 3,758千円)				
目的	資料展示・保管施設の位置付けを明確にし、整備と活用を図ります。また収蔵資料の整理を行い、内容把握とその活用に結びつけます。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵資料の整理と台帳作成（データ化）を行います。 ・ 歴史民俗資料展示、保管施設の活用を検討します。 				
H25年度の課題と取り組み	【課題等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 碓井郷土館所蔵の文書等整理、台帳作成及び整理資料の活用を図ります。 ・ 施設の位置付け、整備の検討と文化財保護審議会での意見の集約に努めます。 【課題等への取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土館所蔵の古文書整理と台帳作成（データ化）を行いました。また、整理した平和祈念館資料を活用し「子どもたちと戦争展」を開催しました。 ・ 文化財保護審議会で活用方法などについて意見をいただきました。 				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平和祈念館収蔵資料の整理に基づき、企画展「子どもたちと戦争展」を開催し、資料を活用することが出来ました。 ・ 碓井郷土館の収蔵資料など1032点の整理（内100点を平和祈念館へ）を行い、データ化しました。 ・ 文化財保護審議会で施設の状況や入館者数を説明し、施設の活用などについて意見をいただきました。 ・ 小学校の授業で嘉穂ふるさと交流館、文化ふれあい伝承館、平和祈念館を活用し、学びを深めることが出来ました。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 碓井郷土館の収蔵資料の整理、データ化を継続します。 ・ 歴史民俗資料展示、保管施設の活用を図ります。 				
H26年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の整理とデータ化を継続します。 ・ 資料展示施設の活用を図ります。 				
『評価委員の意見』					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史ある物を、市内に点在せず一箇所に集めることが必要です。 					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

5. 全体評価結果

(1) 全体評価結果

全体評価結果については、事務局の自己評価と評価委員の意見をふまえた教育委員会の評価結果は下記のとおりとなりました。(全69事業)

	前年度教育委員会評価		教育委員会評価
A：期待通り	30事業 (43.5%)	⇒	33事業 (47.8%)
B：概ね期待通り	39事業 (56.5%)	⇒	36事業 (52.2%)
C：課題あり	0事業 (0.0%)	⇒	0事業 (0.0%)
D：事業の見直し要	0事業 (0.0%)	⇒	0事業 (0.0%)

今回の評価の方法は、昨年度と同様に事業完了度ではなく、目的達成度の観点から総合的に評価を行いました。第三者評価を含んだこれらの評価手法については、客観的な評価が実施できるように、引き続き改善に努めてまいります。

実施事業の全体的な年度比較では、「A評価」が43.5%から47.8%（4.3ポイント増）へ、概ね期待通りの「B評価」が56.5%から52.2%（4.3ポイント減）へ、課題ありの「C評価」及び事業の見直し要の「D評価」の事業は、昨年同様に0%で、全体の評価傾向としては、向上していると考えております。

これは、事業を計画する際に、前年度の点検評価による課題等を十分に考慮し、事前調査や検討を行った結果であると思料します。

しかしながら、平成24年度事業では、A評価であった事業のうち3事業が、今回B評価となっており、その原因を分析し、課題解決に向けた取り組みを行う必要があります。

(2) 重要課題ごとの評価及び課題

○ 重要課題1「少人数指導等による学力向上」

児童・生徒に応じたきめ細かな指導を行う「少人数指導推進事業」の取り組みにより、NRT学力テストでは、学力平均偏差値が昨年 비해0.2ポイント上昇するなど一定の成果をあげることができました。しかしながら、学力実態調査では、福岡県の平均を下回っています。

引き続き、学力実態調査を分析し、さらなる学力向上の取り組みを推進します。

○ 重要課題2「個性又は能力を育成する学校教育の充実」

「特別支援教育総合推進事業」や「補助教員配置事業」については、支援を必要とする児童、生徒に対し、十分な支援が図られていることに対し、高い評価をいただきました。

また、「情報教育推進事業」については、増加するネット犯罪等から児童、生徒を

守るためにインターネットやLINEなどのSNS（ソーシャルネットサービス）の適切な利用方法の指導を充実する必要があります。

○ 重要課題3「豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進」

不登校問題等の解決の取組みとして、「教育相談推進事業」や「学校支援相談員（旧：ひきこもり訪問指導員配置事業）」を実施し、不登校傾向の児童生徒に対する早期対応や不登校の解消、改善に取組み、前年度より減少しました。今後も継続してこの事業を実施し、不登校問題の解決に努める必要があります。

また、「適応指導教室（れすとぴあ）推進事業」では、学校への復帰はできなかつたものの、高校へ進学した生徒や就職をした生徒もあり、不登校児童生徒にとっては、必要な事業であり、今後も継続して事業を実施する必要があります。

○ 重要課題4「生涯学習の実現を目指す社会教育の推進」

社会教育関係団体の育成、公民館活動の活性化や青少年育成等、全てにおいて地域住民との連携が大切です。

各地域性を尊重しながら、地域コミュニティの再構築や指導者及び後継者の育成を推進し、地域力向上を図る必要があります。

○ 重要課題5「体力及び運動能力向上の推進」

「プロジェクトK（旧：ゴールデンエイジプロジェクト）」は、公立保育園と小学校2校で運動指導を実施することができ、今後も継続して、更に小、中学校へ事業の拡大と発達障害の児童等への運動指導等の研修等の開催を期待する旨の評価をいただきました。今後も、関係部署と連携を図りながら事業の拡充を図ります。

「スポーツ大会誘致事業」については、市内の体育施設を活用し、スポーツチームの合宿を誘致することにより、交流人口の増加につながり、地域の活性化を図ることができました。今後は、宿泊施設等の問題の解決に努める必要があります。

○ 重要課題6「人権尊重精神を育成する教育の推進」

市民一人ひとりが、人権問題について正しい認識と理解を深め、日常生活の行動等に確実に根付くよう啓発を推進し、住民の意識向上に努めました。

引き続き、啓発事業を実施し、市民の人権意識の高揚を図る必要があります。

○ 重要課題7「市民文化の創造」

美術館事業については、特に「企画展事業」や「美術教育普及事業」においては、内容が大変工夫されて、充実した事業を実施しており、今後更なる事業の充実を期待する評価をいただきました。

文化財事業については、沖出古墳出土品の再整理や郷土館所蔵の古文書整理等、資料の整理に努めました。引き続き、資料の整理とデータ化を行うとともに、市内に点在する資料の保管方法が課題です。

(3) おわりに

今回点検した教育委員会の事業は、「第2次嘉麻市教育アクションプラン」の具体的な数値目標と、それに対応した行動計画として策定しており、計画的かつ効率的に諸施策を着実に進めている状況です。

また、市民の点検評価委員のみなさまからは評価に対する指摘、改善策、貴重な意見等を頂きました。これらの貴重な意見を事業に活用し、今後の嘉麻市教育行政の発展に役立てていきたいと思えます。

最後に、今回点検評価に参加・ご尽力くださいました委員の皆様に心よりお礼を申し上げ、点検・評価報告書のまとめとさせていただきます。

《 資 料 》

嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱

[平成21年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成23年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成24年嘉麻市教育委員会要綱第3号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条及び嘉麻市教育基本条例（平成22年嘉麻市条例第16号。以下「条例」という。）第7条の規定に基づき、嘉麻市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する事務の点検及び評価について、必要な事項を定めるものとする。

(点検評価事項)

第2条 教育委員会は、前年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、次に掲げる事項の点検及び評価（以下「点検評価」という。）を行う。

- (1) 教育委員会の会議の実施状況等に関すること。
- (2) 教育委員会の主要な施策に関する執行の状況及びその成果に関すること。

(点検評価の方法)

第3条 教育委員会は、点検評価を実施するに当たり、別に定める評価表により教育委員会事務局において、その所管する事務事業等の自己評価を行わせるものとする。

2 教育委員会は、前項の自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員（以下「評価委員」という。）を設置する。

3 教育委員会は、評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価を行う。

(評価委員)

第4条 評価委員は、10人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 嘉麻市議会議員
- (2) 嘉麻市PTA連合会委員

- (3) 嘉麻市社会教育委員
- (4) 嘉麻市公民館運営審議会委員
- (5) 嘉麻市立図書館協議会委員
- (6) 嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員
- (7) 嘉麻市スポーツ推進委員
- (8) 嘉麻市文化財保護審議会委員
- (9) その他教育委員会が適当と認める者

(公表の方法)

第5条 教育委員会は、条例第7条の規定により点検評価の結果に関する報告書は次に掲げる方法で公表する。

- (1) 嘉麻市公式ホームページに掲載
- (2) 報道機関に提供
- (3) 教育分室等での閲覧

(庶務)

第6条 点検評価の実施に関する庶務は、教育部教育総務課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、点検評価の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この要綱は、平成21年7月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月5日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、平成26年4月16日から適用する。

平成26年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿
 (評価対象年度・・・平成25年度)

(敬称略)

	団 体 名	氏 名	備考
1	嘉麻市議会	田淵 千恵子	
2	嘉麻市PTA連合会	縄田 和生	
3	嘉麻市社会教育委員の会	松熊 満江	
4	嘉麻市公民館運営審議会	平井 俊行	
5	嘉麻市立図書館協議会	田中 早苗	
6	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会	吉井 洋子	
7	嘉麻市スポーツ推進委員	山方 国和	
8	嘉麻市文化財保護審議会	香月 靖晴	
9	その他教育委員会が適当と認める者	浅田 勉	

嘉麻市教育委員会点検・評価報告書
(平成25年度事業分)

発行 嘉麻市教育委員会
(お問い合わせ先)
嘉麻市教育委員会教育部教育総務課
〒820-0392 福岡県嘉麻市大隈町733番地
TEL 0948-57-3198

発行年月 平成26年9月